

## II. 雑草防除のてびき（令和7年度版）

### ◎ 雑草防除

1. <a href="#">水稻の雑草防除</a> .....	96
〔I〕 <a href="#">水稻除草剤別使用方法</a>	
1. <a href="#">除草効果を高めるための耕種的な雑草の抑制法</a> .....	97
2. <a href="#">薬剤による防除法</a> .....	97
1) 移植栽培	
(1) <a href="#">初期剤</a> .....	98
(2) <a href="#">初中期一発剤</a> .....	99
(3) <a href="#">中後期剤</a> .....	112
(4) <a href="#">その他剤</a> .....	115
2) <a href="#">直播栽培</a> .....	120
〔II〕 <a href="#">栽培別除草剤使用上の一般的留意事項</a>	
1. <a href="#">除草剤使用上の共通の注意事項</a> .....	122
2. <a href="#">移植栽培（主として稚苗）</a> .....	122
3. <a href="#">直播栽培における雑草防止の留意事項</a> .....	122
4. <a href="#">優占草種と除草剤使用体系について</a> .....	123
5. <a href="#">平年における佐賀県平坦での除草剤処理時期と雑草発生状態</a> .....	123
6. <a href="#">水稻除草剤の田植え同時処理について</a> .....	123
〔III〕 <a href="#">各除草剤の薬害症状</a> .....	124
〔IV〕 <a href="#">スルホニルウレア系（SU剤）除草剤の抵抗性雑草について</a> .....	126
〔V〕 <a href="#">耕起前、休耕田、畦畔堤塘並びに農耕地周辺雑草防除</a>	
(1) <a href="#">除草剤</a> .....	128
(2) <a href="#">抑草剤</a> .....	129
〔VI〕 <a href="#">参考資料（倒状軽減剤）</a> .....	130
2. <a href="#">大豆の雑草防除</a>	
(1) <a href="#">大豆は種前の雑草防除</a> .....	134
(2) <a href="#">大豆は種後の雑草防除</a> .....	136
(3) <a href="#">大豆生育期の雑草防除</a> .....	138
3. <a href="#">果樹の雑草防除</a>	
〔I〕 <a href="#">かんきつ園雑草防除</a> .....	140
〔II〕 <a href="#">落葉果樹園雑草防除</a> .....	145
4. <a href="#">茶の雑草防除</a> .....	149

### ◎ 植物生長調整剤使用方法

1. <a href="#">かんきつ植物生長調整剤</a> .....	151
2. <a href="#">落葉果樹植物生長調整剤</a> .....	156

## ◎ 雑草防除

### 1. 水稲の雑草防除 [\[目次に戻る\]](#)

#### 除草剤の使用に当たって

耕地における雑草発生の多少は、作物の収量を大きく左右し、これまでの試験結果からみれば無除草栽培により減収する場合もある。

除草剤の普及にともない従来 10 アール当り除草労力は水稲作で 40 数時間も必要としたが、現在では数時間となり同時に栽培方法までも変えることができた。(直播、機械移植など)

このように、作物栽培に大きく貢献している除草剤であるが、どの雑草も除草できる万能薬ではなく、除草剤だけで防除を続けていると雑草の優占種に変化がみられ、除草効果が低下してゆく。この例として最近、アゼナ、コナギ、ミゾハコベ、ホタルイ、ミズガヤツリ、藻類などの増加がある。

また除草剤は、農薬登録によって、安全性について充分検討されているが、一部には人畜毒性や魚毒性のあるものもあり使用に当たっては注意が必要である。

そこで、除草剤使用に当たっては、その性質を十分知り、対象とする雑草や作物に対して適切に使用すれば問題は生じないが、使用法をまちがえると除草効果が劣ったり、作物に薬害がみられ、場合によっては、周辺の作物や水産動植物などにも被害をあたえることがあることから、除草効果を高めるためには、耕種的防除方法とともに使用基準並びに使用上の注意を遵守して、作物の薬害と他の部門に問題が生じないように使用しなければならない。

特に水産動植物に対しては、通常の使用方法では影響の少ない(魚毒性B類)除草剤でも使用時期が梅雨期にあたり、一時に広範囲に使用するときには、影響が懸念されるので水管理など十分に注意する。

## 〔 I 〕 水稻除草剤別使用方法 [〔目次に戻る〕](#)

### 1. 除草効果を高めるための耕種的な雑草の抑制法

- 1) 生ワラ、麦稈等を施用したほ場では、ディスクローラ等を用いて完全埋没に努める。
- 2) ほ場への入水は、雑草の発芽を促進させるので、必要以上に早く行わない。
- 3) 入水後は速やかに耕起代かきを行い、植え付け精度が低下しない限り、移植は早めに行う。
- 4) 代かきは丁寧に行った後、湛水状態を保ち、雑草発生の抑制に努める。

### 2. 薬剤による防除法

#### ※除草剤全体にかかる部分での注意事項

- 移植後の除草剤施用に当たっては、雑草の発生状況に注意するとともに、ラベルに記載された事項を守り、除草効果の確保に努める。
- 農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を7日間以上とする。また、止水期間中については、農薬の流出を防止するとともに、入水は静かに行う等、適切な水管理や畦畔整備等の措置を講じるよう努めること。
- 除草効果を高めるため、使用時期の範囲内で、使用時期に掲載しているノビエの葉齢を0.5葉早めに処理することが望ましい。  
例)「移植後5日～ノビエ2.5葉期」とある場合は、ノビエの2葉期までに使用する。
- 田植えと同時処理する「移植時」を使用時期に追加登録されている除草剤があるが、佐賀県においては試験を実施していないため、[初期剤の項](#)に「移植時」に登録がある除草剤として紹介している。

## 1) 移植栽培

※ 農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を1週間程度とする。また、止水期間中については、農薬の流出を防止するとともに、適切な水管理や畦畔整備等の措置を講じるよう努めること。

### (1) 初期剤 [【目次に戻る】](#)

初期除草剤においては、代掻きから移植前に登録があるものがあるが、佐賀県においては、環境にも配慮し、田植え前の使用を控えることとしており、「てびきにおける使用時期」においては移植後のみの使用時期について掲載しています。

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
1	アルハーブフロアブル (フェンプロピル4.0%)	①雑草発生前から始期で有効なので処理時期が遅れないように注意する。 ②一年生広葉雑草の多発田では効果にふれが出るので使用をさける。必要に応じて移植後に使用する除草剤との体系で使用する。 ③散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は、落水、かけ流しはしない。④砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田および極端な深植えをした水田等では、薬害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。
2	クマイイサキドリEW (ペントキサリオン4.0%) (ブタクロール12.0%)	①雑草発生前から始期で有効なので処理時期が遅れないように注意する。 ②苗が水没するような深水状態では葉鞘部に薬害が生じる場合がある。 ③レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④浅植えや軟弱苗の場合には薬害の恐れがあるので使用に注意する。
3	サンバード粒剤 (ピラゾレート10.0%)	①湛水状態で均一に散布し、できるだけ長い期間、少なくとも3～4日間は、湛水状態を保ち、7日間は落水、かけ流しはしない。 ②水が切れると効果が低下するので、田面の露出をさける。 ③散布後の落水、かけ流しは絶対避ける。 ④雑草の発生前～始期にかけて処理すると効果が高い。
※	スタメンフロアブル (イフェンカルバゾン3.9%)	①代かき、均平化及び植付作業はていねいに行う。 ②移植当日に使用する場合は、移植後に使用すること。 ③湛水状態で均一に散布し、少なくとも3～4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ④砂質土壌の水田及び漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田では薬害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ⑤雑草の発生前から発生初期に有効なので時期を失ないように散布する。
5	パデホープ1キロ粒剤 (タムロン15.0%) (ブテチラクロール3.0%)	①水田の代かき、均平は丁寧に行う。 ②コナギ多発田での使用は効果が劣ることがあるので、コナギに有効な剤と体系で使用する。 ③軟弱苗を移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。
6	ベクサーフロアブル (ペントキサリオン2.9%)	①湛水深を十分保つ。 ②砂壤土などの漏水田では薬害を生じることがある。 ③漏水田では効果が劣る場合がある。
7	マーシエット1キロ粒剤 (ブタクロール10.0%)	散布後は少なくとも3～4日は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。極端な砂質土壌の水田、漏水の大きな水田での使用は避ける。
8	ホクコーユニハーブフロアブル (ペンゾフェナップ20.0%) (ブテチラクロール5.0%)	①雑草の発生前からノビエ1.0葉期までに散布する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は、落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田および極端な深植えをした水田等では、薬害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

(2) 初中期一発剤 [【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
1	アカツキ1キロ粒剤 (フェノキサルフロン2.0%) (フェネトリン0.3%) (メタラズ0.1%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、入水後水持ちの安定した後に、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
2	アクシズMX1キロ粒剤 (ピリフタド2.4%) (メタラズ0.8%) (トリコロン0.9%)	①移植後7日からノビエの4葉期までに時期を失しないように散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラに対しては、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出している水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。また、散布時または散布数日以内の高温により初期生育の抑制が顕著になる場合があるので注意する。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
3	アップレZ1キロ粒剤 (ピラコニル2.0%) (プロピリスルホン0.9%) (プロモフチ9.0%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に使用する。 ②ミズアオイは1葉期まで、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは4葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、クログワイは発生前から発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層は離は発生前が本剤の散布適期である。 ③クログワイは発生期間が長く遅い発生のもので十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用。 ④いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤いぐさ栽培予定の水田では使用しない。
4	アップレZフロアブル (ピラコニル3.7%) (プロピリスルホン1.7%) (プロモフチ16.8%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態(水深3～5cm)で均一に散布する。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田および砂質土で漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)では、葉害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので使用をさける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑥いぐさ栽培予定の水田では使用しない。
5	アップレZジャンボ (ピラコニル2.0%) (プロピリスルホン0.9%) (プロモフチ9.0%)	①移植3日後からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止め水深5～6cmの湛水状態を保つ。散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らせないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田および砂質土で漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)では、葉害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので使用をさける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑥いぐさ栽培予定の水田では使用しない。
6	アップレZ400FG (ピラコニル2.0%) (プロピリスルホン0.9%) (プロモフチ9.0%)	①移植3日後からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止め水深5～6cmの湛水状態を保つ。散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らせないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田および砂質土で漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)では、葉害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので使用をさける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑥いぐさ栽培予定の水田では使用しない。

[【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
7	アバンティ (カウンスル エナジー) 1キロ粒剤 (トリアフェモン0.5%) (フェンキトリオン3.0%) (フェントラザミド3.0%)	①雑草の発生前からノビエの3.5葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、入水後水持ちの安定した後に、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤薬害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びびさやえんどうを栽培しない。 ⑥いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
8	アピログロウMX1キロ粒剤 (プロチラクロール4.5%) (ピリフタリド1.5%) (ピラゾスルフォンエチル0.3%) (メソトリオン0.9%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも7日間は通常の湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出している水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。また、散布時または散布数日以内の高温により初期生育の抑制が顕著になる場合があるので注意する。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
9	アピログロウMXジャンボ (プロチラクロール11.25%) (ピリフタリド3.75%) (ピラゾスルフォンエチル0.75%) (メソトリオン2.25%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②処理に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも7日間は通常の湛水状態 (5～6cm) を保ち、落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出している水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。また、散布時または散布数日以内の高温により初期生育の抑制が顕著になる場合があるので注意する。 ④処理時に藻類、表層はく離などの浮遊物が多い場合は部分的に薬害が発生したり、効果不足が生じる場合があるので注意する。 ⑤散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑥いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育期に隣接田で使用する場合は生育を阻害するおそれがあるので十分注意する。
10	アピログロウMXエア一粒剤 (プロチラクロール11.25%) (ピリフタリド3.75%) (ピラゾスルフォンエチル0.75%) (メソトリオン2.25%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。クログワイ、オモダカに対しては、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態 (3～5cm) で、まきむらが生じないように均一に散布する。極端な浅水や深水での使用はさける。散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。入水は静かに行う。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えの水田、浮き苗の多い水田、稲の根が露出する条件では、薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。 ④著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用をさける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意する。
11	イネリーグ1キロ粒剤 (クロメプロップ4.5%) (テアルトリオン3.0%) (フェントラザミド3.0%)	①雑草発生前からノビエ3葉期まで、時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。クログワイ、オモダカに対しては、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態 (3～5cm) で、まきむらが生じないように均一に散布する。極端な浅水や深水での使用はさける。散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。入水は静かに行う。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えの水田、浮き苗の多い水田、稲の根が露出する条件では、薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。 ④著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用をさける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意する。

[【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
12	ウィナー1キロ粒剤51 (イ <sup>+</sup> フェンカルバ <sup>+</sup> ゾン2.5%) (プロモ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ト <sup>+</sup> 9.0%) (ペン <sup>+</sup> スル <sup>+</sup> フロ <sup>+</sup> ン <sup>+</sup> メ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ル0.51%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに散布する。オモダカ、クログワイに対しては、有効な後処理剤と組合わせて使用する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は、落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田および極端な深植えをした水田等では、葉害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ④いぐさ、レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。
13	ウィナーLフロアブル (イ <sup>+</sup> フェンカルバ <sup>+</sup> ゾン5.0%) (プロモ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ト <sup>+</sup> 18.0%) (ペン <sup>+</sup> スル <sup>+</sup> フロ <sup>+</sup> ン <sup>+</sup> メ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ル1.0%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに散布する。オモダカ、クログワイに対しては、有効な後処理剤と組合わせて使用する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は、落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田および極端な深植えをした水田等では、葉害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ④いぐさ、レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。
14	ウィナーLジャンボ (イ <sup>+</sup> フェンカルバ <sup>+</sup> ゾン5.0%) (プロモ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ト <sup>+</sup> 18.0%) (ペン <sup>+</sup> スル <sup>+</sup> フロ <sup>+</sup> ン <sup>+</sup> メ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ル1.02%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに散布する。オモダカ、クログワイに対しては、有効な後処理剤と組合わせて使用する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は、落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田および極端な深植えをした水田等では、葉害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ④いぐさ、レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。⑤藻類等が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果が劣る場合があるので使用しない。
15	ウィニングラン1キロ粒剤 (イ <sup>+</sup> フェンカルバ <sup>+</sup> ゾン2.5%) (プロモ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ト <sup>+</sup> 9.0%) (ペン <sup>+</sup> スル <sup>+</sup> フロ <sup>+</sup> ン <sup>+</sup> メ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ル0.75%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出ないよう必ず適期に散布するように注意する。 ②散布に当たっては水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。自然減水より田面の一部が露出するようになったら、水尻は止めたまま、通常の水深になるまで入水を静かに行う。 ③砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田、散布後に高温傾向が続くと予想される時などは、葉害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④いぐさ、レンコン、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
16	ウィニングランフロアブル (イ <sup>+</sup> フェンカルバ <sup>+</sup> ゾン5.0%) (プロモ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ト <sup>+</sup> 18.0%) (ペン <sup>+</sup> スル <sup>+</sup> フロ <sup>+</sup> ン <sup>+</sup> メ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ル1.4%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出ないよう必ず適期に散布するように注意する。 ②散布に当たっては水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻は止めたまま、通常の水深になるまで入水を静かに行う。 ③砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田、散布後に高温傾向が続くと予想される時などは、葉害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④いぐさ、レンコン、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
17	ウィニングランジャンボ (イ <sup>+</sup> フェンカルバ <sup>+</sup> ゾン5.0%) (プロモ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ト <sup>+</sup> 18.0%) (ペン <sup>+</sup> スル <sup>+</sup> フロ <sup>+</sup> ン <sup>+</sup> メ <sup>+</sup> チ <sup>+</sup> ル1.5%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに散布する。生育段階によって効果にフレが出ないよう適期に散布する。 ②散布に当たっては水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻は止めたまま、通常の水深になるまで入水を静かに行う。 ③砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田、散布後に高温傾向が続くと予想される時などは、葉害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④いぐさ、レンコン、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

[【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
18	エンペラー1キロ粒剤 (ピラクロニル2.0%) (ピリミナックメチル0.75%) (フェンキトリアン3.0%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、入水後水持ちの安定した後に、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
19	エンペラーフロアブル (ピラクロニル3.7%) (ピリミナックメチル1.4%) (フェンキトリアン5.6%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて水深3～5cmの湛水状態にし、散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
20	エンペラージャンボ (ピラクロニル8.0%) (ピリミナックメチル3.0%) (フェンキトリアン12.0%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
21	エンペラー豆つぶ250 (ピラクロニル8.0%) (ピリミナックメチル3.0%) (フェンキトリアン12.0%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
※ 22	カチドキZ薬粒 (プロピリスルフロン3.6%) (7ロピラウキソフェンベンゾニル2.0%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生の期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②吸湿性があるので、ぬれた手で作業したり、降雨等で薬剤がぬれないように注意し、開封後は早め使用する。 ③水の出入りを止め、やや深め(水深5～6cm)の湛水状態に保った状態で散布し、散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ④藻や水草が多発している水田や、水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるため、使用はさける。 ⑤砂質土壌の水田及び漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田、散布後に高温傾向が続くと予想される時、稲の根が露出している水田では薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ⑥いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意する。

[【目次に戻る】](#)



番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
23	カチボシ1キログラム剤51 (イフフェンカルバゾン2.5%) (テフアルトリオン2.0%) (ペンシルフロメチル0.51%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに散布する。オモダカ、クログワイは発生の期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②散布に当っては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田等の条件下では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④いぐさ、レンコン、せり、くわいなどの隣接田で使用する場合には、十分注意する。
24	カチボシLフロアブル (イフフェンカルバゾン5.0%) (テフアルトリオン4.0%) (ペンシルフロメチル1.0%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに散布する。オモダカ、クログワイは発生の期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②散布に当っては水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水面全体にゆきわたるように散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田等の条件下では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意する。
25	カチボシLジャンボ (イフフェンカルバゾン8.3%) (テフアルトリオン6.7%) (ペンシルフロメチル1.7%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに散布する。オモダカ、クログワイは発生の期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②処理に当っては水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田等の条件下では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④いぐさ、レンコン、せり、くわいなどの隣接田で使用する場合には、十分注意する。 ⑤藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるので使用をさける。
26	ガツントZ1キログラム剤 (テフアルトリオン2.0%) (プロピリスルフロメチル0.9%)	①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエ3葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によってフレが出るので、必ず適期に使用するよう注意する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く遅い発生のもまで十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田、砂質土壌や漏水田では薬害を生じるおそれがあるので使用を避ける。 ③著しい降雨が予想される場合は使用を控える。 ④散布に当たっては水の出入りを止め湛水状態(3～5cm)で均一に散布する。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑥いぐさ栽培予定水田では使用しない。
27	ガツントZジャンボ (テフアルトリオン10.0%) (プロピリスルフロメチル4.5%)	①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエ3葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によってフレが出るので、必ず適期に使用するよう注意する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く遅い発生のもまで十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田、砂質土壌や漏水田では薬害を生じるおそれがあるので使用を避ける。 ③著しい降雨が予想される場合は使用を控える。 ④散布に当たっては水の出入りを止め湛水状態(3～5cm)で均一に散布する。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑥いぐさ栽培予定水田では使用しない。

[【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
28	ガンガン1キロ粒剤 (ピリミスルファン0.50%) (フェニキサスルホン2.0%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、入水後水持ちの安定した後に、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
29	ガンガンジャンボ (ピリミスルファン2.0%) (フェニキサスルホン8.0%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
30	ガンガン豆つぶ250 (ピリミスルファン2.0%) (フェニキサスルホン8.0%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて5～6cmに湛水状態にして水の出入りを止める。田面に散布し、3～4日間は通常の湛水状態を保ち、7日間は落水、かけ流しをしない。水面浮遊物が多い場合、拡散が不十分になる恐れがあるため、本田内で水田全面に散布する。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
31	キクトモ1キロ粒剤 (カフェンストール3.0%) (ジメタメリン0.60%) (タイムロン9.0%) (ベンゾピシロン3.0%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに散布する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、少なくとも7日間は入水、落水、かけ流しをせず、止水管理をおこなう。 ③異常高温時、砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田、植穴の戻りの悪い水田、極端な深水では葉害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ④いぐさ、れんこん、せり、くわい等の隣接田で使用する場合は十分注意する。
32	サラブレットGO1キロ粒剤 (イマゾスルホン0.9%) (オキサジクロメホン0.6%) (ピラクロニル1.0%) (プロモパチド9.0%)	①本剤は雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によってフレが出るので必ず適期に散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く遅い発生のもので十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田、砂質土壌や漏水田では葉害を生じるおそれがあるので使用を避ける。 ③散布に当たっては水の出入りを止め湛水状態(3～5cm)で均一に散布する。 ④いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤いぐさ栽培予定水田では使用しない。
33	サラブレットGO400FG (イマゾスルホン2.25%) (オキサジクロメホン1.5%) (ピラクロニル2.5%) (プロモパチド22.5%)	①雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しない。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に使用する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止め5～6cmの湛水状態に保つ。 ③藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な葉害や効果不足を生じることがあるので使用を避ける。 ④軟弱な苗、極端な浅植え、極端な深水および砂質土で漏水の大きな水田では、葉害を生じるおそれがあるので使用しない。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

[\[目次に戻る\]](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
34	サラブレットKAI1キロ粒剤 (イマゾスルフロン0.9%) (オキサジクロメホン0.4%) (ピラクロニル2.0%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに時期を失ないように散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラに対しては、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出している水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。 ③いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
35	サラブレットKAIフロアブル (イマゾスルフロン1.7%) (オキサジクロメホン0.57%) (ピラクロニル3.8%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに時期を失ないように散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラに対しては、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出している水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。 ③いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
36	サラブレットKAIジャンボ (イマゾスルフロン2.25%) (オキサジクロメホン0.75%) (ピラクロニル5.0%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに時期を失ないように散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラに対しては、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止め5～6cmの湛水状態を保つ。
37	サラブレットKAI400FG (イマゾスルフロン2.25%) (オキサジクロメホン0.75%) (ピラクロニル5.0%)	③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出している水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤藻や浮き草多発水田では使用を避ける。
38	ジェイソウル1キロ粒剤 (シクロピリモレート3.0%) (ピラゾレート6.0%) (フェントキサミド3.0%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。 ②ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまでアオミドロ・藻類による表層剥離は発生前までが本剤の散布適期である。 ③散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布する。 ④本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面の露出や水を切らさないよう注意する。散布後7日間は落水、かけ流しはしない。止水期間中の入水は静かに行う。 ⑤稲の根が露出する条件では薬害が生じる恐れがあるので使用を避ける。 ⑥浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植え付け作業は丁寧に、未熟有機物を使用した場合は、特に丁寧に作業を行う。 ⑦砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田などは、薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ⑧本剤は、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。
39	ジェイソウルフロアブル (シクロピリモレート5.5%) (ピラゾレート11.0%) (フェントキサミド4.5%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。 ②移植水稻のホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワは3葉期まで、直播水稻のホタルイ・ミズガヤツリは2葉期まで、ヘラオモダカ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ウリカワ(直播水稻)は発生始期まで、オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまでアオミドロ・藻類による表層剥離は発生前までが散布適期である。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま、水田全面にゆきわたるように散布する。処理後、田面水が通常の湛水状態(湛水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らさないよう注意する。散布後7日間は落水、かけ流しはしない。止水期間中の入水は静かに行う。 ③代かき、均平化及び植え付け作業は丁寧に、未熟有機物を使用した場合は、特に丁寧に作業を心がける。 ④砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田などは、薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ⑤本剤は、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。
40	ジェイソウルジャンボ (シクロピリモレート6.7%) (ピラゾレート13.3%) (フェントキサミド6.7%)	①ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ホタルイ、ウリカワ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまでが散布適期である。 ②処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態を保つ。散布後、自然減水により田面の一部が露出したら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れる。 ③藻や浮き草が多発している圃場では拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるため避ける。

[【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
41	シリウスエグザ1キロ粒剤 (オキサジクロホン0.4%) (ピラクロニル2.0%) (ピラゾスルフロンエチル0.3%) (ベンゾピシクロン2.0%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに時期を失しないように散布する。オモダカ、クログワイに対しては、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用 する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも 3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出して いる水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④直播水稲に使用する場合は、葉害を避けるため稲の1葉期以降に使用し、稲の 根が露出している時の使用は避ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
※ 42	シングキ1キロ粒剤 (フェンキナリオン3.0%) (フェントラサミド3.0%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布する。多 年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。オモ ダカ、コウキヤガラには必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用す る。 ②水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通 常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③異常高温時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想さ れる時、砂質土壌の水田および漏水田、軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えの 水田および浮き苗の多い水田、植穴の戻りの悪い水田では葉害が生じる場合 があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避 ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
※ 43	シングキジャンボ (フェンキナリオン12.0%) (フェントラサミド12.0%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布する。多 年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。オモ ダカ、コウキヤガラには必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用す る。 ②やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めて散布し、散布後 3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合、異常高温時、ある いは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時、砂質土壌の水 田および漏水田、軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えの水田および浮き苗の多 い水田、植穴の戻りの悪い水田では葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避 ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
44	シンズイZ1キロ粒剤 (オキサジクロホン0.80%) (フェンキナリオン3.0%) (プロピリスルフロン0.90%) (プロモフチド9.0%)	①雑草の発生前からノビエの3.5葉期までに時期を失しないように散布する。多 年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、入水後水持ちの安定した後に、水の出入りを止めて湛水 のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日 間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪 い水田、異常高温時等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避 ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
45	シンズイZフロアブル (オキサジクロホン1.1%) (フェンキナリオン5.4%) (プロピリスルフロン1.6%) (プロモフチド16.1%)	①雑草の発生前からノビエの3.5葉期までに時期を失しないように散布する。多 年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、入水後水持ちの安定した後に、水の出入りを止めて湛水 のまま水田全面にゆきわたるように散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状 態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪 い水田、異常高温時等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避 ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

[\[目次に戻る\]](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
46	ストレングス1キロ粒剤 (テフルトリオン3.0%) (トリアフェモン0.50%) (フロピラウキンフェンペンジル0.45%)	<p>①薬害を生じるおそれがあるので、後作物として、なす、たまねぎ、さやえんどうを栽培しない。</p> <p>②雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの4葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。</p> <p>③散布の際は、水の出入りを止めて十分な湛水状態(水深3～5cm)のまま均一に散布し、極端な浅水や深水での使用はさける。</p> <p>④散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面の露出をさけ、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。入水は静かに行う。</p> <p>⑤砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田等では、薬害が生じる場合があるので使用をさける。</p> <p>⑥著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用をさける。</p> <p>⑦散布後の田面水を他の作物に灌水しない。</p> <p>⑧いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意する。</p>
※ 47	セイテン1キロ粒剤 (オキサジクロモホン0.8%) (ジメタメトリン0.6%) (フェンキナトリオン3.0%) (ベンズルフロメチル0.75%)	<p>①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラには必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。</p> <p>②水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。</p> <p>③異常高温時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時、砂質土壌の水田および漏水田、軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田、植穴の戻りの悪い水田では薬害が生じる場合があるので使用を避ける。</p> <p>④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。</p> <p>⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。</p>
※ 48	セイテンジャンボ (オキサジクロモホン2.4%) (ジメタメトリン2.4%) (フェンキナトリオン12.0%) (ベンズルフロメチル3.0%)	<p>①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラには必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。</p> <p>②やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めて散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。</p> <p>③藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合、異常高温時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時、砂質土壌の水田および漏水田、軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田、植穴の戻りの悪い水田では薬害が生じる場合があるので使用を避ける。</p> <p>④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。</p> <p>⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。</p>
49	デオーレ1キロ粒剤 (オキサジクロモホン0.4%) (テフルトリオン2.0%) (メタゾスルフロン1.0%)	<p>①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。</p> <p>②散布に当たっては水の出入りを止めて、湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。</p> <p>③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では薬害が生じる場合があるので使用を避ける。</p> <p>④いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害する恐れがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。</p> <p>⑤いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。</p>
50	デオーレジャンボ (オキサジクロモホン1.0%) (テフルトリオン5.0%) (メタゾスルフロン2.5%)	<p>①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。</p> <p>②散布に当たっては水の出入りを止めて、湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。</p> <p>③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では薬害が生じる場合があるので使用を避ける。</p> <p>④いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害する恐れがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。</p> <p>⑤いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。</p>

[【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
51	天空1キロ粒剤 (ベンゾピシロン3.0%) (フェトサミド3.0%) (メタスルフロン0.6%)	①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエ3葉期までに時期を失ないように散布する。 ②軟弱苗や移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ③処理後は通常の湛水状態(水深5~6cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ④いぐさ、れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。 ⑤いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。
52	天空ジャンボ (ベンゾピシロン10.0%) (フェトサミド10.0%) (メタスルフロン2.0%)	①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエ3葉期までに時期を失ないように散布する。 ②軟弱苗や移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ③処理後は通常の湛水状態(水深5~6cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ④いぐさ、れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。 ⑤いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。
53	天空エア一粒剤 (ベンゾピシロン10.0%) (フェトサミド10.0%) (メタスルフロン2.0%)	①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエ3葉期までに時期を失ないように散布する。 ②軟弱苗や移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ③処理後は通常の湛水状態(水深5~6cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ④いぐさ、れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。 ⑤いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。
54	トップガンGT1キロ粒剤51 (ピリノバクメチル0.45%) (プロモプチド9.0%) (ペントキザン0.51%) (ペントキザン2.0%)	①以下のような条件下では葉害が発生する恐れがあるので使用を避けてください。 砂質土壌の水田および漏水田(減水深が2cm/日以上) 軟弱苗を移植した水田 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田 ②散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期成育が抑制されることがある。
55	ドラゴンホークZ(ゼータタイガー)1キロ粒剤 (プロピリスルフロン0.9%) (プロモプチド9%) (ペントキザン2%)	①軟弱苗や移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ②雑草発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。 ③散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態(水深3~5cm)で、まきむらが生じないように均一に散布する。 ④処理後は通常の湛水状態(水深3~5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ⑤著しい多雨条件では効果が低下するため使用しない。 ⑥いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。 ⑦いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。
56	ドラゴンホークZ(ゼータタイガー)フロアブル (プロピリスルフロン1.7%) (プロモプチド16.8%) (ペントキザン3.7%)	①軟弱苗や移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ②雑草発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。 ③散布の際は、容器を軽く振り、水の出入りを止めて湛水状態(水深3~5cm)で、まきむらが生じないように均一に散布する。 ④処理後は通常の湛水状態(水深3~5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ⑤水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水と共に水田全面に拡散させる。また、処理後田面水が通常の湛水状態(湛水深3~5cm)に達した時必ず水を止め田面水が溢れ出ないように注意する。 ⑥著しい多雨条件では効果が低下するため使用しない。 ⑦いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。 ⑧いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。
57	ドラゴンホークZ(ゼータタイガー)ジャンボ (プロピリスルフロン3.0%) (プロモプチド30.0%) (ペントキザン6.67%)	①軟弱苗や移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ②雑草発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。 ③藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な葉害や効果不足を生じる可能性があるため使用を避ける。 ④パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋しないよう注意する。 ⑤散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態(水深5~6cm)で、10a当り10個の割合で水田に均等に投げ入れる。 ⑥処理後は少なくとも3~4日は通常の湛水状態(水深3~5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ⑦著しい多雨条件では効果が低下するため使用しない。 ⑧いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。 ⑨いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。

[\[目次に戻る\]](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
58	バッチリ1キログラム剤 (イマゾスルホン0.9%) (プロモプチド9.0%) (ピラクロニル2.0%)	①砂質土壌の水田、漏水の大きな水田、軟弱な苗を移植した水田での使用は避ける。 ②極端な浅植え、浮苗が多く根が露出している水田では使用しない。 ③散布後7日間は3～5cmの湛水状態を保ち、田面の露出は避け、落水・かけ流しはしない。
59	バッチリフロアブル (イマゾスルホン1.7%) (プロモプチド16.3%) (ピラクロニル3.7%)	①砂質土壌の水田、漏水の大きな水田、軟弱な苗を移植した水田での使用は避ける。 ②極端な浅植え、浮苗が多く根が露出している水田では使用しない。 ③散布後7日間は3～5cmの湛水状態を保ち、田面の露出は避け、落水・かけ流しはしない。
60	バッチリジャンボ (ピラクロニル5.0%) (イマゾスルホン2.25%) (プロモプチド22.5%)	①雑草の発生前からノビエ2.5葉期までに散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラに対しては、有効な後処理剤と組合わせて使用する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態(水深5～6cm)のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は、落水、かけ流しはしない。 ③極端な浅植えや浮き苗の多い水田等では、薬害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ④藻類等が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる場合があるので使用を避ける。
61	バッチリLX1キログラム剤 (イマゾスルホン0.9%) (オキサジクロメホン0.4%) (プロモプチド9.0%) (ピラクロニル2.0%)	①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②使用量に合わせて秤量し、使いきってください。 ③散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態(水深3～5cm)で均一に散布する。本剤散布後、少なくとも3～4日は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ④極端な浅植え、浮苗が多く根が露出している水田、漏水の大きな水田、軟弱な苗を移植した水田での使用は避ける。
62	バッチリLXフロアブル (イマゾスルホン1.7%) (オキサジクロメホン0.56%) (プロモプチド16.3%) (ピラクロニル3.7%)	①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては水の出入りを止め湛水状態(水深3～5cm)で本剤が水田全面にいきわたるように散布する。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流水時とともに水田全面に拡散させ、処理後田面水が通常湛水状態(水深3～5cm)に達したときに必ず水を止め、田面水があふれ出さないように注意する。 ④極端な浅植え、浮苗が多く根が露出している水田、漏水の大きな水田、軟弱な苗を移植した水田での使用は避ける。
63	バッチリLXジャンボ (イマゾスルホン2.25%) (オキサジクロメホン0.75%) (プロモプチド22.5%) (ピラクロニル5.0%)	①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては水の出入りを止め5～6cmの湛水状態を保ってください。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
64	バッチリLX400FG (イマゾスルホン2.25%) (オキサジクロメホン0.75%) (プロモプチド22.5%) (ピラクロニル5.0%)	③極端な浅植、極端な深水、砂質土で漏水の大きな水田、軟弱な苗を移植した水田での使用は避ける。 ④いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤藻や浮き草多発水田では使用を避ける。
65	ベッカク1キログラム剤 (ピリミスルホン0.5%) (フェニキサスルホン2.0%) (フェニキトリホン3.0%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

[【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
66	ベルーガ1キロ粒剤 (ピリミナックメチル0.9%) (フェンキトリオン3.0%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、入水後水持ちの安定した後に、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
67	ポデーガードプロ(カウンスルコン プリート)ジャンボ (テフリトリオン10.0%) (トリアフモン1.6%)	①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエ3葉期までに時期を失しないように散布してください ②葉害が生じるおそれがあるので、後作物として、なす、たまねぎ及びびさやえんどうを栽培しないでください。 ③本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合には十分に注意してください。
68	ヤイバ(ゴール)1キロ粒剤 (ピリミスファン0.5%) (フェントサミド3.0%)	①雑草の発生前からノビエ3葉期までに散布する。オモダカ、クログワイ、コウキヤガラに対しては、有効な後処理剤と組合わせて使用する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、少なくとも7日間は落水、かけ流しをせず、止水管理をおこなう。また、入水は静かにおこなう。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田および極端な深植えをした水田等では、葉害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ④いぐさ、レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。
69	ラオウ1キロ粒剤 (ダィムロン6.0%) (フェニキサスホン1.5%) (フェンキトリオン2.5%) (ペンシルフロンメチル0.75%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、入水後水持ちの安定した後に、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
70	ラオウフロアブル (ダィムロン11.3%) (フェニキサスホン2.8%) (フェンキトリオン4.7%) (ペンシルフロンメチル1.4%)	①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②使用前に容器をよく振る。 ③散布に当たっては、水の出入りを止めて水深3～5cmの湛水状態にし、散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ④砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ⑤散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑥いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
71	流星1キロ粒剤 (フェンキトリオン3.0%) (ペンキサワン2.5%) (メタリルスフロン1.0%)	①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては水の出入りを止めて、湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害する恐れがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。 ⑤いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。

[【目次に戻る】](#)



番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
72	<p>ルンバ楽粒 (オキサジクロメホン2.4%) (プロモアチド<sup>®</sup>36.0%) (フルビラウキソフェンベソ<sup>®</sup>1.8%)</p>	<p>①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。</p> <p>②散布する際は水の出入りを止め、やや深め(水深5～6cm)の湛水状態に保った状態で散布すること。散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。</p> <p>③湛水周縁散布の場合は、周縁部を移動しながらほ場中央部に向かって薬剤を投入すること。</p> <p>④藻や浮草が多発している水田や、水面浮遊物が多い場合は拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるので使用をさけること。</p> <p>⑤砂質土壌の水田や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。</p> <p>⑥散布後に著しい多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。</p> <p>⑦いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。</p>
73	<p>ワザアリ楽粒 (イプフルハ<sup>®</sup>ゾン10%) (テフリトリオン12%)</p>	<p>①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布すること。なお多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。</p> <p>②散布する際は水の出入りを止め、やや深め(水深5～6cm)の湛水状態に保った状態で散布すること。散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。</p> <p>③湛水周縁散布の場合は、周縁部を移動しながらほ場中央部に向かって薬剤を投入すること。</p> <p>④藻や浮草が多発している水田や、水面浮遊物が多い場合は拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるので使用をさけること。</p> <p>⑤砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田等では、薬害が生じる場合があるので使用を避ける。</p> <p>⑥散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。</p> <p>⑦いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。</p>

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。  
使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))

[【目次に戻る】](#)

(3) 中後期剤 [【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
1	2, 4-Dアミン塩 (2, 4-PA49. 5%)	①散布1～2日前に落水し、雑草を十分露出させて散布する。 ②散布2～3日間は落水のままにしておく。 ③晴天が持続する時を選んで散布する。
2	アトカラS (セカンドショットS) ジャンボMX (アジメスルフロン0. 36%) (ペノキスラム0. 36%) (メトリオン2. 0%)	①軟弱苗を移植した水田、稲の根が露出している水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ②藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な葉害や効果不足を生じる可能性があるため使用を避ける。 ③雑草発生前からノビエの3. 5葉期までに時期を失ないように散布する。 ④バックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋しないよう注意する。 ⑤処理に当たっては、水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日は通常の湛水状態(水深3～5cm程度)を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しをしない。 ⑥いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。
3	アトトリ1キロ粒剤 (ピリミスルファン0. 75%)	①軟弱苗や移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ②対象草種以外の雑草を防除するため、他の有効な土壌処理除草剤との体系で使用する。 ③処理後は通常の湛水状態(水深3～5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ④著しい多雨条件では効果が低下するため使用しない。 ⑤オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは他の有効な処理剤との組み合わせで使用すること。 ⑥いぐさ、れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるのでこれらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。
4	ウィードコア1キロ粒剤 (フロルビラウキシフェンベンジール0. 40%) (ペノキスラム0. 50%) (ベンゾピシクロン2. 0%)	①ノビエは4葉期まで、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。 ②湛水状態で田面に均一散布する。水の出入りを止めて少なくとも3～5日間はそのままの湛水状態を保ち、田面を露出させないように注意する。散布後7日間は落水、かけ流しはせず、止水期間中の入水は静かに行う。 ③無人航空機で散布する場合は、散布機種の使用基準に従って散布する。 ④砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田、稲の根が露出している水田、では葉害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ⑤本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの葉害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ⑥いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意する。いぐさ栽培予定水田では使用しない。
5	クリンチャー1キロ粒剤 (シハロップブチル1. 8%)	①ノビエの適用薬令の時期を失ないように散布する。 ②広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用する。 ③漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。
6	クリンチャーEW (シハロップブチル30%)	①展着剤を加用する。 ②ノビエの適用薬令を越えない範囲で処理する。 ③広葉には効果はない。 ④出来るだけ落水処理する。 ⑤初期剤との体系で使用。 ⑥漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。
7	クリンチャーバスME液剤 (シハロップブチル3%) (ベンタゾン20%)	①散布前に完全落水し水の出入口を止めて散布する。 ②晴天の続くときに散布する。 ③漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。 ④オモダカ、クログワイに対しては、有効な前処理剤との組合せで使用する。 ⑤葉害の恐れがあるため、重複散布や軟弱稲への散布を避ける。

[【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
8	ツイゲキ1キロ粒剤 (シメリン3.0%) (ピリミスルファン0.75%) (フェンキトリオン2.5%)	①ノビエの4葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水(水深3~5cm)のまま均一に散布し、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、極端な浅植え水田等では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
9	トドメMF1キロ粒剤 (メタホップ1.35%)	①ノビエの5葉期まで(直播水稲は4葉期まで)に散布する。 ②広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用する。 ③散布後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態(水深3~5cm程度)を保つ。 ④直播水稲に使用する場合は、葉害をさけるため稲の3.5葉期以降に使用する。 ⑤砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)、軟弱徒長苗や、極端な浅植や深植をした水田での使用はさける。 ⑥藻類又は表層剥離の発生しやすい水田では、有効な剤と組み合わせて使用する。
10	ハイカット1キロ粒剤 (ジメトリン1.0%) (ハロスルフォンメチル0.9%) (シロホップブチル1.8%) (ベンゾビシクロン2.0%)	①散布にあたっては、少なくとも3~4日間は通常の湛水を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ②水稲の葉令が4葉期未満の場合や、砂質土壌の水田及び漏水の激しい水田(減水深2cm/日以上)、極端な浅植の水田や根が水田に露出している条件、水稲が水没するような極端な深水条件、などは使用を避ける。 ③レンコン、いぐさなどの生育を阻害する恐れがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用するには十分に注意する。
11	バサグラン粒剤 (ベンタグンナトリウム塩11%)	①落水処理で、土壌が十分湿っているときに散布。 ②完全落水できない場合は、雑草を露出させてから散布する。 ③散布後は入水せずに止水の状態を保ち、降雨があってもそのままにして落水しない。 ④砂質土壌や漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。
12	バサグラン液剤 (ベンタグンナトリウム塩40%)	①落水処理で、土壌が十分湿っているときに散布する。 ②完全落水できない場合は、雑草を露出させてから散布する。 ③散布後は入水せずに止水の状態を保ち、降雨があってもそのままにして落水しない。 ④砂質土壌や漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。 ⑤異常高温下での散布、重複散布、軟弱稲への散布は避ける。
14	ヒエクリーン1キロ粒剤 (ピリミバクメチル1.2%)	①広葉、カヤツリ科雑草が混在する圃場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。 ②ノビエの葉令が進むと効果が劣るので、時期を失ないように散布する。 ③砂質土壌、漏水の大きな水田、極端な浅植えの水田、浮き苗の多い水田、植穴の戻りが悪い水田、稲苗の根が露出している水田では使用をさける。
15	ヒエクリーンバサグラン粒剤 (ピリミバクメチル0.4%) (ベンタグン11.0%)	①ノビエの発生前から4葉期に有効で、イネ科以外の雑草には生育期に有効であるので、時期を失ないように散布する。 ②水の移動に伴う移行性が大きいため、散布の際は水の出入りを止めてごく浅水状態(雑草が水面上に出る状態)にして田面に均一に散布する。深水にすると効果が劣るので注意する。 ③処理2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるため、降雨のない時期を選んで散布する。降雨があっても落水せずそのままの状態を保つ。 ④砂質土壌や漏水田(減水深2cm/日以上)、軟弱苗を移植した水田、極端な浅植や浮き苗の多い水田では使用を避ける。

[【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
16	レブラス1キロ粒剤 (ジメトリン1.0%) (ダィムロン10.0%) (テフルトリオン3.0%) (メタラズスフロン1.2%)	①軟弱苗や移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。②雑草発生前からノビエ4.0葉期までに時期を失ないように散布する。 ③処理後は通常の湛水状態(3~5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ④著しい多雨条件では効果が低下するため使用しない。 ⑤いぐさ、れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の正茎に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。 ⑥いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。
17	レブラスジャンボ (ジメトリン2.5%) (ダィムロン25.0%) (テフルトリオン7.5%) (メタラズスフロン3.0%)	①ノビエ4葉期までに時期を失ないように散布する。 ②散布に当たっては、水の出入りを止めて5~6cmの湛水状態を保つ。散布後は少なくとも3~4日間は湛水状態を保ち、田面露出をさせたり、水を切らさないようにする。 ③藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害する恐れがあるので注意する。
※ 18	ロイヤント乳剤 (フロピラウキシフェンベンジル2.7%)	①散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水、かけ流しはしない。 ②多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。 ③ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので、それら雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用する。 ④土壌水分が少ないと効果が十分に発揮されないことがあるので、乾田または落水状態で散布する際は早め(3日以内)に入水する。 ⑤葉害のおそれがあるので重複散布は避ける。 ⑥砂質土壌の水田および漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田、稲の根が露出している水田では葉害の恐れがあるので使用をさける。 ⑦いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑧幼穂形成期以降の散布では葉先の黄化や止葉の下垂が見られる場合があるが、収量に対する影響は認められていない。
19	ワイドアタックD1キロ粒剤/フォローアップ 1キロ粒剤 (ダィムロン10.0%) (ベキスラム0.6%)	①多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当たっては、水深3~5cmの湛水状態で田面に均一に散布する。水の出入りを止めて、少なくとも3~5日間はそのままの湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。また、止水期間中の入水は静かに行う。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田では、葉害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ④いぐさ、レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。
20	ワイドアタックSC (ベキスラム3.6%)	①展着剤は加用しない。散布前に容器をよく振って使用する。 ②落水後処理する。少なくとも2日間はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しは行わない。 ③多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ④重複散布や軟弱稲への散布は避ける。 ⑤いぐさ、れんこん等の隣接田で使用する場合は十分に注意する。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、「[農薬登録情報提供システム\(農林水産省\)](#)」を参照してください。  
使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

(5) その他剤 [【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
1	モゲトン粒剤 (ACN9%)	①養魚池のある水系では、使用しない。
2	ホクコーダッシュワン フロアブル (イ <sup>ホ</sup> イ <sup>ン</sup> 22.9%) (ベ <sup>ン</sup> ト <sup>キ</sup> サ <sup>ン</sup> 3.8%)	【初期剤】 ①雑草の発生前からノビエ1.0葉期までに散布する。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は、落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田および極端な深植えをした水田等では、葉害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ④レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。
3	ピラクロン1キロ粒剤 (ピ <sup>ラ</sup> クロ <sup>ン</sup> 1.8%)	【初期剤】 ①移植時処理ができる。 ②散布後3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水、かけ流しはしない。 ③オモダカは発生期間が長く、遅い発生のもので十分な効果を示さない場合があるので有効な他剤との組み合わせで使用する。 ④いぐさ、れんこん、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。
4	カイリキZジャンボ (イ <sup>ブ</sup> フェ <sup>カ</sup> ル <sup>ハ</sup> ズ <sup>ン</sup> 8.3%) (テ <sup>ア</sup> リ <sup>ト</sup> リ <sup>ウ</sup> 8.3%) (ブ <sup>ロ</sup> ビ <sup>リ</sup> ス <sup>ル</sup> フ <sup>ロ</sup> ン3.0%)	【初中期一発剤】 ①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生の期間が長く、遅い発生のもので十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤との組み合わせで使用する。 ③水口施用の場合は、水口付近の水深を2～3cm程度に湛水した状態で、入水時に本剤を小包装（パック）のまま、流入水とともに水田全面に拡散させ、田面水が湛水深5～6cmに達した時に必ず水を止める。 ④処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させずに、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで静かに水を入れて水口を閉じること。 ⑤砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植え、及び浮き苗の多い水田では葉害のおそれがあるので使用をさける。 ⑥活着遅延が生じるような異常低温及び寡照条件下では、葉害が生じるおそれがあるので使用をさける。 ⑦いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
5	キクンジャーZ1キロ粒剤 (ピ <sup>ラ</sup> グ <sup>レ</sup> ート15.0%) (ブ <sup>ロ</sup> ビ <sup>リ</sup> ス <sup>ル</sup> フ <sup>ロ</sup> ン0.9%)	【初中期一発剤】 ①軟弱苗や移植した水田、極端な浅植えや極端な深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ②雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。 ③処理後は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ④著しい多雨条件では効果が低下するため使用しない。 ⑤オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のもので十分な効果を示さないので、有効な他剤との組み合わせで使用する。 ⑥いぐさ、れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるのでこれらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。
6	キクンジャーZフロアブル (ピ <sup>ラ</sup> グ <sup>レ</sup> ート27.3%) (ブ <sup>ロ</sup> ビ <sup>リ</sup> ス <sup>ル</sup> フ <sup>ロ</sup> ン1.6%)	【初中期一発剤】 ①軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えや極端な深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。 ②雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。 ③処理後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。 ④著しい多雨条件では効果が低下するため使用しない。 ⑤オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、必要に応じて有効な他剤との組み合わせで使用する。 ⑥いぐさ、れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるのでこれらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。

[【目次に戻る】](#)

7	<p>キラリ 1 キロ粒剤 (イマゾフルフロン0.90%) (テフルトリオン2.0%) (ピラクロニル2.0%)</p>	<p>【初中期一発剤】</p> <p>①移植時からノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。</p> <p>②散布に当っては、水の出入りを止め湛水状態（水深3～5cm）で均一散布する。散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。</p> <p>③軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田および砂質土で漏水の大きな水田（減水深2cm/日以上）では、薬害が発生するおそれがあるので使用しない。</p> <p>④著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので使用をさける。</p> <p>⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。</p> <p>⑥いぐさ栽培予定の水田では使用しない。</p>
8	<p>銀河 1 キロ粒剤 (タムロン10.0%) (ピラクロニル2.0%) (メタゾスルホン1.0%)</p>	<p>【初中期一発剤】</p> <p>①軟弱苗や移植した水田、極端な浅植え深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では使用しない。</p> <p>②雑草発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。</p> <p>③処理後は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、7日間は落水、かけ流しはしない。</p> <p>④著しい多雨条件では効果が低下するため使用しない。</p> <p>⑤いぐさ、れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。</p> <p>⑥いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。</p>
9	<p>クミスター(アルファープロ) 1 キロ粒剤51 (フェキサスロン2.0%) (プロモプーチ9.0%) (ベンシルフロメチル0.51%)</p>	<p>【初中期一発剤】</p> <p>①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。</p> <p>②散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。</p> <p>③砂質土壌や漏水田、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや植穴の戻りの悪い水田等では、薬害が生じる場合がありますので使用を避ける。</p> <p>④散布後に多雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避ける。</p> <p>⑤いぐさ、れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。</p>
10	<p>ジェイフレンドフロアブル (オキサジクロメホ0.57%) (テフルトリオン5.7%) (ピラクロニル3.8%)</p>	<p>【初中期一発剤】</p> <p>①雑草の発生前からノビエの3葉期までに時期を失ないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意する。</p> <p>②ミズガヤツリは4葉期まで、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期までが本剤の散布適期である。</p> <p>③稲の根が露出する条件では薬害が生じるおそれがあるので使用しない。</p> <p>④いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。</p> <p>⑤いぐさの栽培予定水田では使用しない。</p>
11	<p>ジェイフレンドジャンボ (オキサジクロメホ0.75%) (テフルトリオン7.5%) (ピラクロニル5.0%)</p>	<p>【初中期一発剤】</p> <p>①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期まで（ただし、直播水稲は2.5葉期まで）に使用する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。</p> <p>②ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリは3葉期まで、ミズアオイは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期までが散布適期である。</p> <p>③オモダカ、クログワイは発生期間が長く遅い発生のもので十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との合わせて使用する。</p> <p>④散布に当っては、水の出入りを止め5～6cmの湛水状態に保つ。</p> <p>⑤藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な薬害や効果不足を生じることがあるので使用を避ける。</p> <p>⑥砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田および浮き苗の多い水田では薬害が発生するおそれがあるので使用を避ける。</p> <p>⑦いぐさ、れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。</p>

[【目次に戻る】](#)

12	<p>ジャイロフロアブル (イ<sup>®</sup>フェンカルバ<sup>®</sup>ゾン4.5%) (ベン<sup>®</sup>ゾ<sup>®</sup>ピ<sup>®</sup>シクロ<sup>®</sup>ン5.4%) (ベン<sup>®</sup>ゾ<sup>®</sup>フェナ<sup>®</sup>ップ 14.3%)</p>	<p>【初中期一発剤】 ①雑草の発生前からノビエの2.5葉期までに散布する。オモダカに対しては、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。 ②散布に当っては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田等の条件下では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。 ④いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意する。</p>
13	<p>ジャンダルムMX 1 キロ粒剤 (ピ<sup>®</sup>リ<sup>®</sup>フタ<sup>®</sup>リト<sup>®</sup> 1.8%) (ピ<sup>®</sup>リ<sup>®</sup>ミ<sup>®</sup>ス<sup>®</sup>ル<sup>®</sup>ファン<sup>®</sup> 0.5%) (メ<sup>®</sup>ト<sup>®</sup>リ<sup>®</sup>オン<sup>®</sup> 0.9%)</p>	<p>【初中期一発剤】 ①雑草の発生前からノビエの3.5葉期までに散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深が2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出している水田等では、薬害が発生するので使用を避ける。 ③いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合は十分意する。</p>
14	<p>ジャンダルムMXジャンボ (ピ<sup>®</sup>リ<sup>®</sup>フタ<sup>®</sup>リト<sup>®</sup> 7.2%) (ピ<sup>®</sup>リ<sup>®</sup>ミ<sup>®</sup>ス<sup>®</sup>ル<sup>®</sup>ファン<sup>®</sup> 2.0%) (メ<sup>®</sup>ト<sup>®</sup>リ<sup>®</sup>オン<sup>®</sup> 3.6%)</p>	<p>【初中期一発剤】 ①雑草の発生前からノビエの3.5葉期までに散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当ってはやや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めて、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深が2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出している水田等では、薬害が発生するので使用を避ける。 ④藻類等が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる場合があるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合は十分意する。 ⑥いぐさの栽培予定水田では使用しない。</p>
15	<p>ジャンダルムMX豆つぶ250 (ピ<sup>®</sup>リ<sup>®</sup>フタ<sup>®</sup>リト<sup>®</sup> 7.2%) (ピ<sup>®</sup>リ<sup>®</sup>ミ<sup>®</sup>ス<sup>®</sup>ル<sup>®</sup>ファン<sup>®</sup> 2.0%) (メ<sup>®</sup>ト<sup>®</sup>リ<sup>®</sup>オン<sup>®</sup> 3.6%)</p>	<p>【初中期一発剤】 ①雑草の発生前からノビエの3.5葉期までに散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布する。 ②散布に当ってはやや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めて、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 ③砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深が2cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えや根が露出している水田等では、薬害が発生するので使用を避ける。 ④藻類等が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる場合があるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合は十分意する。 ⑥いぐさの栽培予定水田では使用しない。</p>
16	<p>シリウスターボ 1 キロ粒剤 (オ<sup>®</sup>キ<sup>®</sup>サ<sup>®</sup>ジ<sup>®</sup>ク<sup>®</sup>ロ<sup>®</sup>メ<sup>®</sup>ホン<sup>®</sup> 0.8%) (ジ<sup>®</sup>メ<sup>®</sup>タ<sup>®</sup>メ<sup>®</sup>ト<sup>®</sup>リン<sup>®</sup> 0.6%) (ピ<sup>®</sup>ラ<sup>®</sup>ゾ<sup>®</sup>ス<sup>®</sup>ル<sup>®</sup>フ<sup>®</sup>ロ<sup>®</sup>ン<sup>®</sup>エ<sup>®</sup>チ<sup>®</sup>ル<sup>®</sup> 0.3%) (ベン<sup>®</sup>ゾ<sup>®</sup>ピ<sup>®</sup>シクロ<sup>®</sup>ン 2.0%)</p>	<p>【初中期一発剤】 ①草の発生前から生育初期に有効なのでノビエ2.5葉期までに散布する。 ②オモダカ、クログワイの防除は、有効な後処理剤と組み合わせて使用する。 ③砂質土壌や漏水田、軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや浮き苗の多い水田および極端な深植えをした水田等では、薬害を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 ④いぐさ、レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤本剤散布後の田面水を他作物に灌水しない。 ⑥いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しない。</p>

[【目次に戻る】](#)

17	<p>ゼータプラス 1 キロ粒剤 (フェンキトリン3.0%) (プロピリスルホン0.9%)</p>	<p>【初中期一発剤】 ①本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3.5葉期までに時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するようにする。 ②散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5cm）で、まきむらが生じないように均一に散布すること。また、極端な浅水や深水での使用はさけること。 ③散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。入水は静かにおこなう。 ④砂質土壌の水田および漏水の大きな水田（減水深が2cm/日以上）、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田では、葉害が生じる場合があるので使用を避ける。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。</p>
18	<p>ドリフ1キロ粒剤 (エトキシスルホン0.17%) (クロメプロップ 4.5%) (トリアアモン0.40%) (フェントラサミド 2.0%)</p>	<p>【初中期一発剤】 ①雑草の発生前からノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に使用する。 ②ホタルイは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ウリカワは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、キシウシュズメノヒユは再生始期までが散布適期である。 ③オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用して下さい。 ④葉害を生じるおそれがあるため、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しない。 ⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育期に隣接田で使用する場合には十分に注意する。</p>
19	<p>フルスコア Z 1 キロ粒剤 (プロピリスルホン0.9%) (ランコトリオンナトリウム塩2.1%)</p>	<p>【初中期一発剤】 ①移植水稻に使用する場合はノビエの3.5葉期まで、直播水稻に使用する場合は稲2葉期からノビエの3.5葉期までに使用する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレがでるので、必ず適期に散布する。 ②シズイ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、生育段階によって効果にフレがでるので、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤との組み合わせで使用する。 ③前処理剤との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、使用時期を失しないように適期に散布する。</p>
20	<p>フルスコア Z ジャンボ (プロピリスルホン3.0%) (ランコトリオンナトリウム塩7.0%)</p>	<p>④砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えの水田、浮き苗の多い水田、稲の根が露出する条件では、葉害が生じるので使用しない。 ⑤散布後の低温および急激な気温の上昇により葉害が発生するおそれがあるので、十分注意する。 ⑥いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害するおそれがあるので、隣接田で使用する場合には十分注意する。 ⑦いぐさ栽培予定水田では使用しない。</p>



[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	使 用 上 の 注 意
21	ヒエクツパエース1キロ粒剤 (フルトスルフロン0.33%)	<p>【中・後期剤】</p> <p>①ノビエの5葉期までに、時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するよう注意する。</p> <p>②ウリカワ・ヘラオモダカは4葉期までに、クログワイ・コウキヤガラ・シズイは草丈15cmまでに、ヒルムシロは発生期までに散布する。</p> <p>③クログワイ、コウキヤガラ、シズイは必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。</p> <p>④散布は、湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（3～5cm）を保ち、田面を露出させないようにする。</p> <p>⑤砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）では使用しない。</p> <p>⑥いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意する。</p>
22	ワイドショット1キロ粒剤 (テフルトリオン3.0%) (ベキスラム0.50%)	<p>【中・後期剤】</p> <p>①本剤を移植水稻に使用する場合は、ノビエの4葉期までに時期を失しないように散布する。オモダカ、クログワイ、シズイの防除は、必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせで使用する。</p> <p>②散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。</p> <p>③前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失ないように適期に散布する。</p> <p>④砂質土壌の水田、減水深の大きな水田（減水深2cm/日以上）、苗が軟弱な場合や活着不良の時、又は極端な深植えの場合等の条件下では、薬害を生じやすいので使用をさける。</p> <p>⑤いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。</p>

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。  
使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

2) 直播栽培 [【目次に戻る】](#)

番号	除草剤名 (成分)	使用上の注意
1	キックバイ 1 キロ粒剤 (イマゾスルフロン0.9%) (エトベンザニド15%) (ダィムロン15%)	①湛水状態で均一に散布し、3～4日間は通常の湛水状態を保ち、7日間は落水、かけ流しはしない。 ②本剤は、その殺草特性からいぐさ、レンコン等の生育を阻害する恐れがあるので、生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。特に早期水稲で使用する場合は、萌芽期と重なるため使用しない。 ③コウキヤガラの防除は有効な他剤との組合せで使用する。
2	サターンバアロ乳剤 (ベンチカーブ50%) (プロメトリン5%)	①覆土は2～3cmとし、鎮圧後散布 ②生育期に散布すると薬害の危険があるので絶対に使用しない。 ③出芽直前に散布し滞水する場合は薬害の危険があるので、降雨が予想される場合には播種後早い時期に散布する。
3	サンバード粒剤 (ピラジナート10%)	①湛水状態で均一に散布し、できるだけ長い期間、少なくとも5日間以上、湛水状態を保ち、7日間は落水、かけ流しはしない。 ②水が切れると効果が低下するので、田面の露出をさける。 ③散布後の落水、かけ流しは絶対避ける。 ④雑草の発生前～始期にかけて処理すると効果が高い。
4	バサグラン液剤 (ベンラギン40%)	①落水処理で、土壌が十分湿っている状態のときに散布。 ②完全落水できない場合は、雑草を露出させてから散布する。 ③散布後は入水せずに止水の状態を保ち、降雨があってもそのままにして落水しない。
5	モゲトン粒剤 (CAN9.0%)	①養魚池のある水系では、使用しない。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム \(農林水産省\)」](#)を参照してください。

使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

## ○直播栽培

本てびきに掲載されている水稻除草剤の中で、[2-2\)直播栽培の項](#)に記載された農薬以外に、直播栽培の登録がある除草剤は以下の剤となります。使用される場合は、各農薬に掲載されているラベルを熟読のうえ、指導及び使用ください。

アカツキ1キロ粒剤、アクシズMX1キロ粒剤、アッパレZ1キロ粒剤、アッパレZフロアブル、アッパレZジャンボ、アッパレZ400FG、アトカラSジャンボMX/セカンドショットSジャンボMX、アトトリ1キロ粒剤、アバンティ1キロ粒剤/カウンシルエナジー1キロ粒剤、アピログロウMX1キロ粒剤、アピログロウMXジャンボ、アピログロウMXエアーク剤、イネリーグ1キロ粒剤、ウィードコア1キロ粒剤、ウィナー1キロ粒剤51、ウィナーLフロアブル、ウィナーLジャンボ、ウィニングラン1キロ粒剤、ウィニングランフロアブル、ウィニングランジャンボ、エンペラー1キロ粒剤、エンペラーフロアブル、エンペラージャンボ、エンペラー豆つぶ250、カチボシ1キロ粒剤51、カチボシLフロアブル、カチボシLジャンボ、ガツントZ1キロ粒剤、ガツントZジャンボ、ガンガン1キロ粒剤、ガンガンジャンボ、ガンガン豆つぶ250、クンジャンZ1キロ粒剤、キラリ1キロ粒剤、銀河1キロ粒剤、クリンチャー1キロ粒剤、クリンチャーEW、クリンチャーバスメ液剤、クマイイサキドリEW、サラブレットGO1キロ粒剤、サラブレットGO400FG、サラブレットKAI1キロ粒剤、サラブレットKAIフロアブル、サラブレットKAIジャンボ、サラブレットKAI400FG、ジェイソウル1キロ粒剤、ジェイソウルフロアブル、ジェイソウルジャンボ、ジェイフレンドジャンボ、ジェイフレンドフロアブル、ジャイロフロアブル、ジャンダルムMX1キロ粒剤、ジャンダルムMXジャンボ、ジャンダルムMX豆つぶ250、シリウスエグザ1キロ粒剤、シングキ1キロ粒剤、シングキジャンボ、シンズイZ1キロ粒剤、シンズイZフロアブル、ストレンクス1キロ粒剤、ゼータプラス1キロ粒剤、ツイゲキ1キロ粒剤、ディオレー1キロ粒剤、ディオレーレジャンボ、天空1キロ粒剤、天空ジャンボ、天空エアーク剤、トップガンGT1キロ粒剤51、トドメMF1キロ粒剤、ドラゴンホークZ1キロ粒剤/ゼータタイガー1キロ粒剤、ドラゴンホークZフロアブル/ゼータタイガーフロアブル、ドラゴンホークZジャンボ/ゼータタイガージャンボ、ドリフ1キロ粒剤、ハイカット1キロ粒剤、バサグラン粒剤、バッチリ1キロ粒剤、バッチリフロアブル、バッチリジャンボ、バッチリLX1キロ粒剤、バッチリLXジャンボ、バッチリLXフロアブル、バッチリLX400FG、ヒエクッパエース1キロ粒剤、ヒエクリン1キロ粒剤、ヒエクリンバサグラン粒剤、バサグラン液剤、ピラクロン1キロ粒剤、フルスコアZ1キロ粒剤、フルスコアZジャンボ、ベッカク1キロ粒剤、ベルーガ1キロ粒剤、ボデーガードプロジャンボ/カウンシルコンプリートジャンボ、ラオウ1キロ粒剤、ラオウフロアブル、流星1キロ粒剤、レブラス1キロ粒剤、レブラスジャンボ、ワイドアタックD1キロ粒剤/フォローアップ1キロ粒剤、ワイドアタックSC、ワイドショット1キロ粒剤、ワザアリ薬粒

## ○移植時

本てびきに掲載されている水稻除草剤の中で、移植時に登録がある除草剤は以下の剤となります。移植時に使用される場合は、各農薬に掲載されているラベルを熟読のうえ、指導及び使用ください。

アカツキ1キロ粒剤、アッパレZ1キロ粒剤、アバンティ1キロ粒剤/カウンシルエナジー1キロ粒剤、アピログロウMX1キロ粒剤、アルハーフフロアブル、イネリーグ1キロ粒剤、ウィナー1キロ粒剤51、ウィナーLフロアブル、ウィニングラン1キロ粒剤、ウィニングランフロアブル、エンペラー1キロ粒剤、エンペラーフロアブル、カチボシ1キロ粒剤51、カチボシLフロアブル、ガツントZ1キロ粒剤、ガンガン1キロ粒剤、キクトモ1キロ粒剤、クンジャンZ1キロ粒剤、キラリ1キロ粒剤、銀河1キロ粒剤、クマイイサキドリEW、サラブレットGO1キロ粒剤、サラブレットKAI1キロ粒剤、サラブレットKAIフロアブル、ジェイソウル1キロ粒剤、ジェイソウルフロアブル、ジェイフレンド1キロ粒剤、ジャイロフロアブル、ジャンダルムMX1キロ粒剤、シリウスエグザ1キロ粒剤、シングキ1キロ粒剤、シングキジャンボ、シンズイ1キロ粒剤、ゼータプラス1キロ粒剤、ダッシュワンフロアブル、ディオレー1キロ粒剤、天空1キロ粒剤、トップガンGT1キロ粒剤51、ドラゴンホークZ1キロ粒剤/ゼータタイガー1キロ粒剤、ドリフ1キロ粒剤、バッチリ1キロ粒剤、バッチリフロアブル、バッチリLX1キロ粒剤、バッチリLXフロアブル、ピラクロン1キロ粒剤、ベクサーフロアブル、ベッカク1キロ粒剤、ベルーガ1キロ粒剤、ヤイバ1キロ粒剤/ゴール1キロ粒剤、マーシェット1キロ粒剤、ユニハーフフロアブル、ラオウ1キロ粒剤、ラオウフロアブル、流星1キロ粒剤

## 〔Ⅱ〕 栽培別除草剤使用上の一般的留意事項 [〔目次に戻る〕](#)

### 1. 除草剤使用上の共通的注意事項 [〔目次に戻る〕](#)

- (1) 健苗を育成し、本田での移植精度を高くする。
- (2) 軟弱徒長苗の場合は移植後の使用を避け、水稻が健全な状態になってから使用する。
- (3) 生ワラ等有機物多用田では、代かき精度を高めるとともに田面の均平化をはかる。
- (4) 湛水深は3～4 cm(ジャンボ剤等では5～6 cm)で均一に散布し、その後7日間以上の止水管理を遵守する。

### 2. 移植栽培（主として稚苗） [〔目次に戻る〕](#)

- (1) 田面が不均一で深水となるところは、水稻が軟弱徒長な生育となっていて、薬害を受けやすいので、後日生育が正常になってから散布する方がよい。
- (2) 2. 4-Dなどのホルモン型茎葉処理剤の散布は、水稻の幼穂形成始期以前までに散布し、水稻体への薬液附着が少ないように株間中心に散布する。
- (3) 常襲的な浸冠水田では、葉鞘褐変や分げつ抑制などの薬害症状が強く出る除草剤は使用しない。

### 3. 直播栽培における雑草防止の留意事項 [〔目次に戻る〕](#)

- (1) 直播栽培では水稻への薬害が懸念されるため、播種前後の時期には特に薬害の少ない除草剤を使用する。
- (2) 湛水直播では播種直後にピラゾレート散布すると除草効果が高い。
- (3) 湛水直播では登録除草剤の使用時期が移植栽培に比べて短いので、散布時期を逸さないように気を付ける。
- (4) 乾田直播では播種後出芽前（雑草発生前）までのなるべく早い時期に除草剤を散布した方がより除草効果は高い。
- (5) 乾田直播においては播種から入水までの期間が長くなる場合は、その間に雑草の生育が進むため、乾田状態で茎葉処理剤を散布する。
- (6) 乾田直播において入水後の除草剤は、日減水深が2cm以下となってから散布した方が望ましい。特にシメトリン系除草剤については散布前後の気象条件と漏水に注意する必要がある（28℃以上の高温あるいは15～16℃以下の持続的な低温、減水深2cm/日以上により薬害を生じ易い）。

#### 4. 優占草種と除草剤使用体系について [【目次に戻る】](#)

現在、本県における雑草の草種別発生面積は1年生イネ科及び広葉雑草が多い。近年、アゼガヤ、コナギ、ホタルイ、コウキヤガラ、藻類などが増加しつつある。

そこで、これらの雑草の防除にあたっては、それぞれの地区内、個々の水田雑草の草種が何れであるかということをも十分把握して、除草剤の使用体系や設計を樹立することが必要である。また、発生時期や発生の多少もよく把握した上で除草剤の効果的な使用に心掛け、必要以上の除草剤使用は避ける。

#### 5. 平年における佐賀県平坦での除草剤処理時期と雑草発生状態 [【目次に戻る】](#)

(佐賀試セ)

処理時期	水 稲	ノビエ	カヤツリ グ サ	コナギ	一年生 広 葉	ホタルイ	ク ロ グ ワイ	セ リ
-4日	代かき	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	切 断
±0日	2.5L	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	活 着
+3日	2.9L	0.3L	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	0.5L
+5日	3.3L	0.5L	発生始	0.3L	0.3L	0.3L	発生始	1.0L
+7日	3.7L	1.0L	0.3L	0.5L	0.5L	0.5L	0.3L	1.5L
+10日	4.2L	1.5L	0.5L	1.0L	1.0L	1.0L	0.5L	2.0L
+13日	5.5L	2.0L	1.0L	1.5L	1.5L	1.5L	1.0L	2.5L
+15日	5.9L	2.5L	1.5L	2.0L	2.0L	2.0L	1.5L	3.0L

注) 発生時期は高温や浅水で早くなる。

#### 6. 水稲除草剤の田植え同時処理について [【目次に戻る】](#)

近年、省力技術として、水稲除草剤の田植え同時除草剤処理（以下、田植え同時処理）が普及している。しかし、田植え同時処理での適切な使用ができていないために、水稲への薬害事例の報告が急増している。そこで、田植え同時処理における主な留意点を紹介する。

- (1) 田植同時処理の登録があり、使用する地域で効果、薬害発生の有無の確認を行い、機械適性を有した剤を選定する。
- (2) 同じ目盛りでも、剤の形状、粒形、比重によって散布量が変わるので、処理前に散布量の調整を必ず行い、適正量が散布されるようにする。
- (3) 植付け後の土の戻りが悪いほ場では田植同時処理は行わない。
- (4) 代かきは丁寧に行い、均平度を保つ。
- (5) 田植えはヒタヒタ水の状態で行う。
- (6) 田植え（散布）終了後は通常の湛水深（3～5cm）まで速やかに入水する。
- (7) 浅植えや浮き苗がないよう適正な植え付け深度を保つ。（浅植え、浮き苗は薬害が発生しやすい）
- (8) 不整形なほ場では、田植機が何度も入る部分があるため、重複散布とならないよう注意する。
- (9) 雨の中で粒剤による田植同時処理を行う場合は、カバーをかけるなど、散布機に水が入らないよう注意する。

〔Ⅲ〕 各除草剤の薬害症状 [〔目次に戻る〕](#)

成分名	HRAC コード	薬害症状	雑草スペクトラム (極大◎>大○>中△>小×、不明—)							持続 効果	土壌中 の 移動性	温度の 影響	発生要因
			ハビエ	カヤツ グサ	コギ	その 他広 葉	ホトイ	ウカワ	クワ イ				
MCPB	4	ロール葉 生育抑制	×	○	○	○	◎	○	—	長	小	中	低温条件が数日続く とき
アジムスルフ ロン	2	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	長	中	小	
イブフェンカル バゾン	15	生育抑制	◎	◎	○~ ◎	○	○	×	×	極長	極小	小	
イマゾスルフ ロン	2	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	長	小	小	
エトキシスルフ ロン	2	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	長	中	小	
エトベンザニド	0	発芽後 生育阻害	◎	×	△	×	×	×	×	長	小	小	
オキサジクロメ ホン	0	生育抑制	◎	◎	○	○	×	×	—	極長	小	小	
カフェンスト ロール	15	生育抑制	◎	◎	○~ ◎	○	△~ ○	×	×	長	極長	小~中	
キノクラミン (ACN)	0	褐変 生育抑制	×	×	×	×	×	○	×	短	小	小	
クロメプロップ	4	ロール葉	×	◎	◎	◎	◎	○	—	長	中	小	低温条件が数日続く とき
シクロピリモ レート	33	白化	△	◎	◎	◎	◎	◎	—	長	極小	小	
シハロホップブ チル	1	黄化、生育停止 枯死	◎	×	×	×	×	×	×	短	小	小	
ジメタメトリン	5	生育抑制 下葉枯れ	△	◎	◎	◎	○	△	—	長	小	小~中	高温条件、低温から 高温への急激な温度 変化
シメトリン	5	葉先枯れ 生育抑制	○	○	◎	◎	△	△	—	中~長	小	中	高温条件、低温から 高温への急激な温度 変化
ダイムロン	0	—	×	◎	×	×	◎	×	○	長	小	小	
テニルクロール	15	発芽抑制 生育抑制	◎	◎	○	○	○	×	×	長	小	小	
テフリルトリオ ン	27	白化	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	長	中	小	
トリアファモン	2	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	◎	◎	極長	極小~ 小	小	
ハロスルフロン エチル	2	生育阻害	△~ ○	◎	◎	◎	◎	◎	○	長	中	小	

[〔目次に戻る〕](#)

成分名	HRAC コード	薬害症状	雑草スペクトラム (極大◎>大○>中△>小×、不明-)							持続 効果	土壌中 の 移動性	温度の 影響	発生要因
			ノビエ	カヤツ グサ	コギ	その 他広 葉	ホトト ギ	ウリカ	クワ イ				
ピラクロニル	14	葉鞘褐変 生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	長	極小	小	
ピラゾスルフロ ンエチル	2	発芽・生育抑 制	△~ ○	◎	◎	◎	◎	◎	○	長	中	小	
ピラゾレート	27	白化	◎	◎	◎	○	○	◎	-	長	小~中	中	著しい高温条件
ピリフタリド	2	生育抑制	◎	○	×	○~ ◎	△	×	-	長	極小	小	
ピリミスルファ ン	2	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	長	中	小	
ピリミノバック メチル	2	生育抑制	◎	×	×	×	×	○	×	長	中	小	
フェノキサスル ホン	15	生育抑制	◎	◎	◎	○	△~ ○	×	×	極長	小	小	
フェンキノトリ オン	27	白化, 生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	◎	-	極長	小~中	小	
フェントラザミ ド	15	発芽, 生育抑制	◎	◎	◎	◎	△	△	×	長	極小	小	
ブタクロール	15	生育抑制	◎	◎	○	◎	◎	×	×	長	小	小	極端な高温時、温度 の急激な変化
フルセトスルフ ロン	2	生育抑制	◎	○	◎	△	△	○	△	長	中	小	
ブレチラクロー ル	15	発芽, 生育抑制	◎	◎	○	◎	◎	×	-	中~長	小	小	極端な高温時、温度 の急激な変化
フロルピラウキ シフェンベンジ ル	4	ロール葉, 生育 抑制	○	◎	◎	◎	○	◎	△	長	極小	小	
プロピリスルフ ロン	2	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	極長	極小	小	
プロモブチド	0	生育抑制	○	◎	◎	△	◎	△	○	長	中	小	
ペノキススラム	2	生育阻害 生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	中	中	小	
ベンスルフロ ンメチル	2	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	◎	△~ ○	非イ科 30日 以上	中	中	
ベンゾピシクロ ン	27	生育抑制 退色	○	◎	◎	○	◎	△	△	極長	極小	小~中	
ベンゾフェナッ プ	27	-	○	○	◎	◎	△	◎	×	長	小	小~中	
ペンタゾン	6	葉枯れ	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	大	やや有	

[【目次に戻る】](#)

成分名	HRACコード	薬害症状	雑草スペクトラム (極大◎>大○>中△>小×、不明-)							持続効果	土壌中の移動性	温度の影響	発生要因
			ノビエ	カヤツリグサ	コナギ	その他広葉	ネムリ	ウリカ	クログワイ				
ベンチオカーブ	15	生育抑制	◎	◎	△	○	○	×	×	中	小	小	
ペントキサゾン	14	接触部位・葉鞘褐変、生育抑制	◎	◎	◎	◎	○	×	○	長	極小	小	深水・軟弱徒長苗
メソトリオン	27	白化、発芽・生育阻害	×	◎	◎	◎	◎	△	-	長	小	小～中	
メタゾスルフロ	2	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	長	中	小	
メタミホップ	1	生育抑制、葉先白化	◎	×	×	×	×	×	×	中	小	小～中	
メフェナセット	15	発芽・生育抑制	◎	◎	◎	△	△	×	×	長	極小	小	
モリネート	15	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	×	△	長	中	小	極端な還元状態
ランコトリオンナトリウム塩	27	白化	○	◎	◎	○	◎	◎	△	長	中	小	

出展元) 公益財団法人日本植物調節剤協会「水稲関係除草剤申請書」

## [【目次に戻る】](#)

### 〔Ⅳ〕 スルホニルウレア系（S U 剤）除草剤の抵抗性雑草について [【目次に戻る】](#)

#### (1) 抵抗性雑草の確認

本県で 1999 年佐賀郡諸富町において、1 年生広葉アゼナ、ミゾハコベの S U 剤抵抗性が確認された。これは、暖地普通期水稲としては全国でも最も早い確認である。2000 年には新たに杵島郡江北町のアゼナ、小城郡芦刈町のキカシグサ、鹿島市のミゾハコベで新たに確認された。2001 年には江北町・2003 年には相知町のミゾハコベにおいても抵抗性が確認された。

#### (2) 抵抗性雑草とは

気象条件や水管理、散布時期などの効果のフレとは関係なく、適正に除草剤処理を行っても効かない草と考えると良い。スルホニルウレア系除草剤の連続的使用によって、その除草剤に効かない草を淘汰圧によって増加させてしまったことになる。抵抗性は優性となり、一度抵抗性雑草となればその後は抵抗性を持ち続けるとされている。抵抗性が確認されたのは S U 剤が初めてである。

#### (3) S U 剤抵抗性雑草として確認されている雑草

本県においては、アゼナ、ミゾハコベ及びキカシグサであるが、他県ではコナギ、キクモ、ミズアオイ、アゼトウガラシ、イヌホタルイなどで確認されている。

雑草としてはマイナーで比較的水稲生育阻害が少なく、防除も容易と見られているアゼナ



やミゾハコベであるが寒冷地の例ではその後、多年生雑草で難防除雑草であるイヌホタルイなどに抵抗性が付いてしまうことが大きな問題である。福岡県ですでにアメリカアゼナ、コナギ、イヌホタルイにおいて確認されたことから、より一層今後の対応については慎重に対処する必要がある。

(4) S U 剤としての成分

ベンスルフロンメチル，ピラゾスルフロンエチル，イマゾスルフロン，エトキシスルフロン，シクロスルファミロン，シノスルフロン，アジムスルフロン，ハロスルフロンメチル、フルセトフロン、プロピリスルフロンを成分として含んでいるのはS U 剤混合剤と言い、現在本県の初期一発剤、初中期一発剤の大半に含まれる剤である。

(5) S U 剤抵抗性雑草への対策

コナギやイヌホタルイに対しては有効な除草剤成分が確認されており、ブロモブチドやクロメプロップ、ベンゾビシクロンなどの効果が高い。また、ベンゾフェナップやテフリルトリオンなどもこれら抵抗性雑草に有効とされている。

(6) 除草剤使用にあたって今後注意すること

1) 抵抗性が確認された地域（圃場）

① S U 剤を含まない防除方法（体系処理も含む）が最も有効、次いで② S U 剤は含むが抵抗性雑草に有効な剤の使用であり、特に②の場合には除草剤のローテーション使用に心掛けなければ、抵抗性雑草草種の広がりにつながりかねない。その中で初期剤と S U 剤（一発剤）を組み合わせた体系は今後ローテーションのメニューとして捉える必要がある。

また、抵抗性雑草が確認された地域（圃場）では、抵抗性雑草に対して有効な剤を登録の範囲内で出来るだけ早めに処理することが望ましい。

2) 抵抗性が確認されていない地域（圃場）

その確認を続けながら当面①除草剤のローテーション散布（S U 剤を全く含まない剤も使用例に入れて）を行う。②この場合も S U 混合剤同一剤の連用は避ける。

いずれにしても、未確認の地域でも S U 剤を全く含まない剤や体系処理を一つの事例として組んでいく必要がある。また、そのような対応を採っても抵抗性雑草が確認されれば、その時点で 1) の対応となる。

(7) 抵抗性の一年生広葉雑草に効果の高い成分と効果の低い成分

ミゾハコベ、更にはアゼナを主体とした草種に有効な成分を県農試の試験等を基に示した。

効果の高い成分名	ジメタメトリン、ナプロアニリド、ベンゾフェナップ、インダノファン、プレチラクロール、ピリブチカルブ、フェントラザミド、ベントゾン、MCPB
効果の低い成分名	ジメピペレート、クミルロン、エスプロカルブ、ベンフレセート

[\[目次に戻る\]](#)

## 〔V〕 耕起前、休耕田、畦畔堤塘並びに農耕地周辺雑草防除

### (1) 除 草 剤 [〔目次に戻る〕](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意 事 項
アーザラン液剤 (アゾラム 37%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 効果発現は極めて遅効的(1ヶ月)である。</li> <li>② 10月～3月の期間は気温が低く、雑草の抵抗力が大であるので、使用をさける。</li> <li>③ 3回以内</li> </ul>
プリグロックスL (ジクワット 7%) (ハラコート 5%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 接触型茎葉処理剤なので周囲への飛散を避けるため、散布はできるだけ低圧で行う。</li> <li>② また必要に応じて飛散の少ないノズルや飛散防止カバーを使用する。曇天日や夕方など光量の少ないときに散布すれば除草効果が高まる。</li> </ul>
ワンサイドP乳剤 (フルアジホップP 17.5%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 10アール当りの散布液量100～150L</li> <li>② 1年生イネ科雑草が対象の場合は2～5葉期の処理が最も効果が高い。</li> <li>③ また、多年生イネ科雑草を対象とする場合は、幼穂形成期前であってなるべく葉面積の広い時期が適期となる。</li> <li>④ 本剤は効果発現に日数を要する(15～20日間)ので注意する。</li> <li>⑤ 散布液がイネ科作物にかかるると薬害が生じるので散布周辺にイネ科作物がある場合は十分注意する。</li> </ul>
ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩 48%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 希釈水量は均一に散布できる範囲でなるべく少なくする。</li> <li>② 多年生雑草を完全枯殺するためには開花期以後がよい。</li> <li>③ 散布後3時間以内の降雨は効果を低下させるので注意する。</li> <li>④ 遅効性であるから散布後10日以内で地上部を刈取らないこと。</li> <li>⑤ 選択性がないので、周辺有用植物に薬液が飛散しないように注意する。</li> <li>⑥ 畦畔ではノリ面散布はさける。</li> <li>⑦ 周辺農耕地に作物がある場合は、薬液が飛散しないよう注意する。</li> </ul>
草枯らしMIC (グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 展着剤加用の必要はない。</li> <li>② 雑草の発生前処理効果はない。</li> <li>③ 散布前に雑草の地上部を刈り払わない。</li> <li>④ 通常2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。</li> <li>⑤ スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没して</li> <li>⑥ いるような条件では効果が劣るため、適期に散布する。</li> <li>⑦ 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く</li> <li>⑧ 見極めてから散布する。</li> <li>⑨ 少量散布の場合は少量散布用ノズルを用い、雑草葉面に均一に散布する。</li> <li>⑩ 水田への飛散、流入等により水稻に薬害を生ずるので、十分注意する。</li> <li>⑪ 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないように十分注意する。</li> <li>⑫ 土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。</li> </ul>
バスタ液剤 (グリホサート 18.5%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 散布後2～5日で効果が発現し、速効性である。</li> <li>② 雑草の発生前処理効果はない。</li> <li>③ 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候をよく見極めてから散布する。</li> <li>④ 少量散布用ノズルを用いて、雑草の茎葉が軽く、均一にぬれる程度に散布する。</li> <li>⑤ 農作物や有用植物に散布液がかかると、薬害を生じるので注意する。</li> <li>⑥ 枯死まで14日以上程度要す、即効性である。</li> </ul>

[〔目次に戻る〕](#)

除草剤名	使用上の注意事項
タッチダウン i Q (グリホサートカリウム塩 44.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 展着剤加用の必要はない。</li> <li>② 散布後、効果の発現までに一年生雑草で2～4日、多年草雑草で1～2週間を要するので、この間に地上部を刈取らない。</li> <li>③ 土壌で不活性化するので、雑草の発生前処理に効果はない。</li> <li>④ スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件では効果が劣るため、適期に散布する。</li> <li>⑤ 土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。</li> <li>⑥ 散布後1時間後の雨でも効果を発現するが、激しい降雨の予想される場合は使用を避ける。</li> <li>⑦ 散布にあたっては希釈水量10ℓ/10aでは極少量散布専用ノズル、25～50ℓ/10aでは少量散布専用ノズルを使用する</li> <li>⑧ 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい葉害が生ずるので、かからないように十分注意する。</li> <li>⑨ 水田畦畔に使用する場合は水田内に流入または飛散すると、葉害を生じる恐れがあるので、かからないように十分注意する。</li> </ul>
ザクサ液剤 (ガルホネートPナトリウム塩 11.5%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。</li> <li>② 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので時期を失しないように、薬液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布する。</li> <li>③ 植物に薬液が付着すると葉害を生ずるので、散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないように十分注意する。</li> <li>④ 土壌処理剤「ダイロンゾル」を混用すると、抑草期間が延長できる。</li> <li>⑤ 散布液を調製した容器及び散布器具は使用后十分に洗っておく。</li> </ul>
ダイロンゾル (DCMU 50.0%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本剤を所定量の水で希釈し、時々攪拌しながら均一に散布する。</li> <li>② 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。</li> <li>③ 砂質で水はけの良い場所や雨の多い時期には、薬剤が土中深く浸透して有用植物に葉害が生ずる恐れがあるので注意する。</li> <li>④ 水田畦畔の雑草防除を目的として使用する場合、雑草が枯れ残る場合もあるが、抑草効果は持続するので、追加散布や繰り返し散布をしない。</li> <li>⑤ 茎葉処理剤「ザクサ液剤」を混用すると、抑草期間が延長できる。</li> </ul>

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#))。

## (2) 抑草剤 [【目次に戻る】](#)

抑草剤名	使用上の留意事項
グラスショット液剤 (ピスピリバクナトリウム塩 3.0%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 抑草期間は30～40日であり草種によって期間は異なる。</li> <li>② 山間山麓では有効であるが平坦地ではメリットは小さい。</li> </ul>

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#))。

## 参 考 資 料

### 倒伏軽減剤【目次に戻る】

倒伏対策は基本的には健苗、施肥法および水管理など栽培法の基本技術を徹底して、倒伏防止を図ることが肝要であるが、何らかの要因により倒伏が予想され著しく収量、品質が低下すると思われる場合は、以下の使用基準を厳守して使用する。

#### 1. スマレクト粒剤（パクロブトラゾール 0.6%）

毒 性：普通物

適用作物と使用方法

作物	使用目的	使用時期	使用方法
水稲	節間短縮による倒伏軽減	出穂7～20日前	湛水散布

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

#### ○使用上の注意事項

- (1) 湛水状態（湛水3cm以上）でまきむらのないよう均一に散布し、散布後少なくとも7日間は落水やかけ流しはしない。
- (2) 極端な漏水田での使用をさける。
- (3) 倒伏軽減効果については次のことに注意する。
  - ① 黒ぼく土壌では効果が十分に発揮されない場合があるので注意する。
  - ② 重複散布や多量散布は、薬害を生じたり、後作物や次年度の作物に影響する可能性があるため使用量を厳守する。
  - ③ 本剤を使用した後に野菜類を作付けする場合、浅い耕起では初期生育に影響することがあるので、ていねいに深く耕起する。
  - ④ 本剤を使用した水田土を野菜類の育苗用床土に使用しない。
  - ⑤ 本剤は温度、土壌、栽培品種および連年使用など使用する水田の条件や栽培管理によって倒伏軽減効果の発現程度に差異を生じるので注意する。
- (4) 使用時期は幼穂発育期になるので、この時期の水管理は慣行に従い、入念に実施する。
- (5) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意する。

2. イネビタン粒剤  $\left( \begin{array}{l} \text{イソプロチオラン 12.0\%} \\ \text{パクロブトラゾール 0.45\%} \end{array} \right)$

○毒性：普通物

○適用作物と使用方法

作物	使用目的	使用時期	使用方法
水稲	節間短縮による倒伏軽減	出穂10～20日前 (但し、収穫45日前まで)	湛水散布

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMICホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

○使用上の注意事項

スマレクト粒剤の項参照。

3. ロミカ粒剤（ユニコナゾールP0.04%）

○毒性：普通物

○適用作物と使用方法

作物	使用目的	使用時期	使用方法
水稲	節間短縮による倒伏軽減	出穂25～10日前まで	湛水散布

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMICホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

○使用上の注意事項

- (1) 湛水状態（湛水3cm以上）でまきむらのないよう均一に散布し、散布後少なくとも7日間は落水やかけ流しはしない。
- (2) 極端な漏水田での使用をさける。
- (3) 倒伏軽減効果については次のことに注意する。
  - ① 黒ぼく土壌では効果が十分に発揮されない場合があるので注意する。
  - ② 重複散布や多量散布は、後作物に影響する場合があるので使用量を厳守する。
  - ③ 本剤を使用した水田土を野菜類の育苗用床土に使用しない。
  - ④ 本剤は温度、土壌、栽培品種および連年使用など使用する水田の条件や栽培管理

によって倒伏軽減効果の発現程度に差異を生じるので注意する。

- (4) 使用時期は幼穂発育期になるので、この時期の水管理は慣行に従い、入念に実施する。
- (5) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意する。
- (6) 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には、吐き出させ直ちに医師の手当を受けさせること。

本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。

- (7) 本剤は、眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。入った場合には、直ちに水洗すること。
- (8) 散布の際は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また、粉末を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

#### 4. ビビフルフロアブル（プロヘキサジオンカルシウム塩 1.0%）

○毒性：普通物

○適用作物と使用法

作物	使用目的	使用時期	使用方法
水稻	節間短縮による倒伏軽減	出穂10～2日前	茎葉散布

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

○使用上の注意事項

- (1) 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用直前に容器をよく振る。
- (2) 伸長を過度に抑制させないために、必ず所定の使用量、使用時期を厳守し、稲の茎葉部に均一に散布する。
- (3) 皮ふに弱い刺激性がある。
- (4) 散布むらに注意する。

5. ビビフル粉剤DL (プロヘキサジオンカルシウム塩 0.12%)

○毒性：普通物

○適用作物と使用法

作物	使用目的	使用時期	使用方法
水稻	節間短縮による倒伏軽減	出穂10～5日前	動力散粉機、粉剤用ホース使用

注) 各薬剤の農薬登録情報は、「[農薬登録情報提供システム \(農林水産省\)](#)」を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

○使用上の注意事項

前項5を参照するが、飛散の少ない時間帯を選んで散布する。

## 2. 大豆の雑草防除

### (1) 大豆は種前の雑草防除 [【目次に戻る】](#)

除草剤名	使用上の注意
草枯らしMIC (グリホサートイソプロピルアミン塩41%)	① 泥などで濁った水で本剤の調製をしない。 ② 展着剤の加用は必要ない。 ③ 雑草の発生前処理効果はなく、散布時の雑草の草丈(30cm以下)や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払うなどしない。 ④ 通常 2～14 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。 ⑤ 処理後 6 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布する。 ⑥ 少量散布の場合は、専用のノズルを用いて雑草の葉面に均一に散布する。 ⑦ 飛散により薬液が作物に付着したり、水田への流入等により農作物に被害を生ずるので、十分注意する。 2回以内
※ タッチダウン i Q (グリホサートカリウム塩 44.7%)	① 展着剤加用の必要はない。 ② 散布後、効果の発現までに一年生雑草で2～4日、多年草雑草で1～2週間を要するので、この間に地上部を刈取らない。 ③ 土壌で不活性化するので、雑草の発生前処理に効果はない。 ④ スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件では効果が劣るため、適期に散布する。 ⑤ 土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。 ⑥ 散布後1時間後の雨でも効果を発現するが、激しい降雨の予想される場合は使用を避ける。 ⑦ 散布にあたっては希釈水量10ℓ/10aでは極少量散布専用ノズル、25～50ℓ/10aでは少量散布専用ノズルを使用する。 ⑧ 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないように十分注意する。 2回以内
※ トレファノサイド乳剤 (トリフルラリン44.5%)	① 播種後の土壌処理剤の施用を前提で実施する。また、帰化アサガオ類の種子は数年単位で生残し、出芽期間が長いので、複数回の茎葉処理や畝間・株間処理、スポット処理など複数の手段で防除を行う。 ② トリフルラリンは散布後、徐々に土中で気化・拡散してその効果を発現するが、太陽光や降雨の影響でも気化等が進むため、土壌混和処理はできるだけ播種直前に実施することが望ましい。 2回以内
バスタ液剤 (カルボシネート18.5%)	① 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。 ② 薬液は雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 ③ 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずることがあるので、天候をよく見極めてから散布する。 ④ 散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないよう注意する。 ⑤ 展着剤は必要ない。 3回以内
ブリグロックスL (ジクワット7.0%) (パラコート5.0%)	① 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。 ② 展着剤を加用する場合は、非イオン系展着剤を使用する。 ③ 散布液量は雑草の大きさや密度に応じて、適宜増減する。 ④ 散布は、なるべく低圧で、風向きなどに注意し、薬液が飛散しないよう十分注意する。特に、作物にかからないように、専用の噴口や散布器具を用いて散布する。 ⑤ 播種の約1週間前から前日までに使用する。 4回以内

[【目次に戻る】](#)



除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩48.0%)	① 泥などで濁った水で本剤の調製をしない。 ② 展着剤の加用は必要ない。 ③ 雑草の発生前処理効果はなく、散布時の雑草の生育量が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払うなどしない。 ④ 通常 2～7 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。 ⑤ 処理後 1 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布する。 ⑥ 少量散布の場合は、専用のノズルを用いて雑草の葉面に均一に散布する。 ⑦ 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないよう十分注意する。 2回以内

注) 各薬剤の農薬登録情報は、「[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#)」を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#)）。

[【目次に戻る】](#)

(2) 大豆は種後の雑草防除 [【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
<p>エコトップ粒剤 (ジメナミト<sup>®</sup>1.6%) (リニuron1.4%)</p>	<p>①砕土、整地はていねいに行い、種子が露出しないように覆土はできるだけていねいに行い、覆土深を2～3cm以上とする。 ②土壌が極端に乾燥している場合には効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいる時に散布する。 ③水はけの悪い圃場及び過湿条件では葉害の恐れがあるので使用を避ける。 ④散布後に多量の降雨が予想される場合には葉害の恐れがあるので使用を避ける。 ⑤隣接作物に飛散すると葉害を生じるので、飛散しないよう注意して散布する。 ⑥砂質土の保水力の小さい圃場では使用しない。 1回</p>
<p>クリアターン細粒剤F (ベンチカーブ<sup>®</sup>8%) (ベンテメタリン0.8%) (リニuron1.2%)</p>	<p>①砕土、整地を丁寧に行う。 ②覆土は2～3cm確実にする。 ③土壌が極端に乾燥していれば効果が劣るので適度の水分を維持しているときに散布する。 ④雑草の生育が進むと効果は劣る。 ⑤排水を良くし過湿とならないようにする。 ⑥畑地一年生雑草対象 1回</p>
<p>サターンバアロ乳剤 (ベンチカーブ<sup>®</sup>50%) (プロメトリン5.0%)</p>	<p>①覆土は2～3cmとし、よく整地して散布する。大豆は適湿であれば2～3日で芽が動くので播種直後に散布する。 ②発芽後の散布は絶対さける。 ③隣接作物にかからないようにする。 ④乳剤は土壌が乾燥している場合は希釈水を増す。</p>
<p>サターンバアロ粒剤 (ベンチカーブ<sup>®</sup>8%) (プロメトリン0.8%)</p>	<p>⑤粒剤は土壌水分が不足した場合の効果が劣る。 ⑥大豆本葉2～4枚時の雑草は中耕培土を十分行ない防除する。 ⑦畑地一年生雑草対象 1回</p>
<p>サンダーボルト007 (グリホサートイソプロピルアミン塩30.0%) (ピラフルフェンエチル0.16%)</p>	<p>①散布器具、容器は除草剤専用のものを用いて、散布液を調製した容器及び器具は使用後石けん水などで十分洗浄する。 ②グリホサートを含む混合剤であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用する。 ③展着剤加用の必要はない。 ④激しい降雨の予想される場合は使用をさける。 ⑤農作物や有用植物にかかると強い葉害を生じるので、風向きなどに十分注意してかからないように散布する。また、水田への飛散、流入等により水稻に葉害が生じるので十分注意する。 2回以内</p>
<p>ダイロンゾル (DCMU50.0%)</p>	<p>①一年生雑草を対象とする。 ②播種時には十分な播種深度を確保する。 1回</p>
<p>トレファノサイド粒剤2.5 (トリフルアリン2.5%)</p>	<p>①土塊はできるだけ小さく砕き、整地をよくする。 ②覆土は2～3cmとする。 ③土壌が乾燥している場合は効果が劣る。 ④畑地一年生雑草対象（ツユクサ、カヤツリグサ、キク科、アブラナ科除く） 1回</p>
<p>フルミオWDG (フルミキサジン50.0%)</p>	<p>①必ず大豆出芽前・雑草発生前に処理を行う。 ②イネ科及び多年生雑草には効果が劣るので、それらが優先する圃場での使用は避ける。 ③周辺作物に散布液が付着すると葉害を生じるので、風向きなどに十分注意してかからないように散布する。 ④水田に流入すると、稲が枯れるので十分注意する。 ⑤使用した器具類は、散布後速やかに水で洗浄すると共に、フルミオWDG洗浄剤を使用し洗浄する。 1回</p>

[【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
プロールプラス乳剤 (ジメナミドP6.7%) (ペンテイメチン6.5%) (リニロン11.4%)	①雑草の生育が進むと効果が劣るので、必ず時期を失しないように散布する。 ②碎土、整地は丁寧に行い、種子が露出しないように覆土深を2～3cm以上確保する。・散布直後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見きわめてから散布する。 ③散布に当たっては、他作物に飛散しないよう十分注意して使用する。 ④本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので注意する。 ⑤散布に使った器具類は良く水洗する。 1回
日産ラクサー粒剤 (アラクロール4%) (リニロン1.04%)	①碎土、整地は丁寧に行い、種子が露出しないように覆土はできるだけ丁寧に行い、覆土深を2～3cm以上とする。 ②土壌が極端に乾燥している場合には効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいる時に散布する。 ③水はけの悪い圃場及び過湿条件では薬害の恐れがあるので使用を避ける。 ④散布後に多量の降雨が予想される場合には薬害の恐れがあるので使用を避ける。 ⑤隣接作物に飛散すると薬害を生じるので、飛散しないよう注意して散布する。 ⑥砂質土の保水力の小さい圃場では使用しない。 1回
日産ラクサー乳剤 (アラクロール30.0%) (リニロン12.0%)	①一年生雑草を対象とする。 ②碎土、整地は丁寧に行い、覆土深を2～3cm以上とする。 ③多量の降雨が予想される場合や、加湿な土壌水分条件では使用を避ける。 ④砂質土の保水力の小さい圃場では使用しない。 1回
日農/日産 ラッソー乳剤 (アラクロール43%)	①覆土2～3cmとし、よく整地してから散布する。 ②雑草発生後は除草効果が劣るので雑草の発生直前までに散布する。 ③本剤はイネ科の雑草に効果が高い。 ④大豆本葉2～4枚時の雑草は中耕培土を十分行ない防除する。 ⑤畑地一年生雑草対象 1回

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

(3) 大豆生育期の雑草防除 [【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
<p>アタックショット乳剤 (フルアセトメチル2.0%)</p>	<p>①キク科、カヤツリグサ科には効果が劣る場合があるので、それらが優占するほ場での使用は避ける。                  ②発生前の雑草に対する土壌処理効果はないので、雑草の発生が揃ってから処理する。                  ③処理時に展開していた葉に褐斑や縮葉等を生じ、生育が遅れることがあるので、気象条件、栽培条件等によりだいたいが生育不良の場合又は生育不良が予想される場合には使用を避ける。                  ④本剤の散布適期は雑草生育期（草丈10cm以下）であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので時期を失しないように散布する。                  ⑤イネ科雑草に対する除草効果は期待できないので、イネ科雑草対象の土壌処理剤または茎葉処理剤との体系で使用する。                  ⑥処理後6時間以内の降雨は効果を減ずることがあるので、天候をよく見極めてから処理する。                  1回</p>
<p>ザクサ液剤 (ケルホソネトPナトリウム塩11.5%)</p>	<p>①散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。                  ②雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので時期を失しないように、薬液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布する。                  ③植物に薬液が付着すると薬害を生じるので、散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないように十分注意する。                  ④散布液を調製した容器及び散布器具は使用後十分に洗ってください。                  3回以内</p>
<p>セレクト乳剤 (クレジム24.0%)</p>	<p>①畑地1年生イネ科雑草対象、広葉雑草には効果が無いのでイネ科優占圃場で使用する。                  ②やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1週間から2週間前後を要する。スズメノカタビラはさらに期間を要する。                  ③広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。                  1回</p>
<p>大豆バサグラン液剤 (ベンタリグナトリウム塩40.0%)</p>	<p>①土壌処理剤の効果が十分でない場合に使用する。                  ②周辺の作物にかからないように注意する。                  ③草種によって効果が異なるので、優占雑草を把握して使用する（タデ科、キク科、アブラナ科&gt;ナス科、ヒルガオ科）                  ④葉の斑点、色抜け、黄変、縮葉等一過性の薬害が生じる場合がある。薬害程度は品種によって異なり、減収となる場合もあるので使用品種の薬害程度を確認してから使用する。                  ⑤薬害の程度は、大豆の品種によって異なり、フクユタカでは軽微であるが、スズオトメではやや大きい場合がある。                  ⑥薬害が助長される場合であるので、他の除草剤や殺虫剤・殺菌剤との混用及び展着剤の加用は避ける。                  ⑦有機リン剤：エチルチオメトン粒剤（播種時使用）との組み合わせ処理で、薬害が強く出た試験事例があるので留意する。                  1回</p>
<p>ナブ乳剤 (セトキシム20%)</p>	<p>①適用雑草、畑地1年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く。）                  ②広葉雑草、カヤツリグサ科には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用する。                  ③雑草の発生が揃った時期に散布するのが効果的。                  1回</p>
<p>バスタ液剤 (ケルホソネト18.5%)</p>	<p>①雑草生育期の茎葉散布を行う（畦間又は株間処理）。                  ②大豆生育期の散布に当たっては、大豆にかからないように注意する。                  ③薬液が付着した場合は周辺の作物にも被害を与えるので、飛散に注意する。                  3回以内</p>

[【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
パワーガイザー液剤 (イマザモックスアンモニウム塩 0.85%)	①展着剤は加用しない。 ②有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるため避ける。 ③雑草の発生始期から2葉期にかけて高い効果を示す。 ④砂土では使用しない。 ⑤処理後に降雨が予想される時には使用を避ける。 ⑥高葉量または初生葉期以降の散布では薬害が発生する恐れがあるので、使用量・使用時期を厳守する。 ⑦他作物に飛散しないよう十分注意して使用する。 1回
ポルトフロアブル (キザロホップエチル7.0%)	①広葉雑草およびカヤツリグサ科には効果が期待できないので、イネ科雑草（スズメノカタビラ除く）優占圃場で使用する。なお、広葉雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な土壌処理型除草剤との体系で使用する。 ②イネ科雑草を完全に枯殺するまでに約1週間を要する。 ③イネ科作物には薬害があるので、周囲にイネ科作物がある場合は、薬剤が飛散しないように注意する。 ④本剤の使用に当っては、展着剤の加用は必要ない。 ⑤冬期の低温期や出穂期以降など、雑草の生育が停止している場合には、効果が劣ることがある。 ⑥激しい降雨の予想される場合は使用をさける。 2回
ロロックス (リニロン50.0%)	①だいたいの畦間・株間処理に使用する場合、専用ノズルを使用する。〔推奨ノズル：TP-3235大豆畝間株間用口角ノズル（ヤマホ工業株式会社）〕また、噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する。 ②覆土は細かく砕いて均一厚目にする。 ③激しい降雨の予想される場合は使用しない。 ④砂土では使用しない。 ⑤イネ科雑草およびカヤツリグサ科には効果が劣るため、これらに有効な除草剤を体系で使用する。 ⑥雑草茎葉兼土壌散布（株間、畦間処理）は1回以内
ワンサイドP乳剤 (フルアジホップP17.5%)	①畑地一年生イネ科雑草対象（スズメノカタビラ除く） ②イネ科優占圃場で使用する。 ③イネ科雑草には選択的な除草効果が見られるが、広葉、カヤツリグサ科雑草には効果がないので、それに有効な除草剤を体系で使用する。 ④雑草の発芽後、雑草の茎葉に散布する。 ⑤雑草の幼穂形成期を過ぎると効果が劣るので適期を失しないよう散布する。（雑草3～5葉期） 1回

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMICホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#)）。

[【目次に戻る】](#)

### 3. 果 樹 の 雑 草 防 除

#### 〔 I 〕 かんきつ園雑草防除 [〔目次に戻る〕](#)

薬 剂 名	①ゾーバー	②バスタ液剤
効果の高い雑草	メヒシバ、オヒシバ、エノコログサ、ハコベ等の畑地1年生雑草	メヒシバ、オヒシバ、エノコログサ、カラスノエンドウ等の1年生雑草 スギナ、ギシギシ、ヨモギ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ヤブガラシ、カラスムギ、ギシギシ、ヨモギ、イヌビユ、ハマスゲ、チガヤ、ネザサ等	ヤブガラシ、カラスムギ、ギシギシ、ヨモギ、イヌビユ、ハマスゲ、チガヤ、ネザサ等
効果の発現	春：約1週間 夏：2～3日	2～5日
抑草期間	60日	40日～50日
薬害	・砂質で透水性の大きな土壌の園では、薬害が生じるおそれがあるので使用は避けること ・苗木生産圃場では使用しない	枝葉に直接かかると薬害を生じるが、根部からの吸収害はない。
散布時の注意事項	①茎葉処理の場合は非イオン系展着剤を加用し、よく雑草に付着するように散布する ②かんきつに対して根部からの吸収害はほとんどないが、マツ・スギ・マキの防風垣の近くでは薬害が生じるため使用しない ③本剤は茎葉処理及び土壌処理効果を有するため、雑草のないところにも均一にムラなく散布する。 ④雑草生育期散布では草丈20cm以下の時に散布する。 ⑤雑草草丈が20cm以上の場合や、雑草密度の高い場合は他の茎葉処理剤との同時処理をする ⑥適用作物以外の圃場には使用しない。また付近の農作物、芝生、花卉類等にかからないように注意する	①グルホシネートを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②冬期～春先の低温時期よりも、5月以降の高温期での効果が優れる。 ③安定した効果を出すためには草丈、草量の増加に伴い薬量を増すが、特に生育が進んだ多年草には1,000mlが必要。 ④高濃度散布の場合ほとんどの草種で地上部の枯殺は出来るが、宿根部からの再生が見られる。 ⑤散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めて散布する。
有効成分	ターバシル40.0% DCMU40.0%	グルホシネート18.5%

薬 剤 名	③ラウンドアップマックスロード	④草枯らしMIC
効果の高い雑草	メヒシバ、エノコログサ等の1年生雑草 チガヤ、ヨモギ、ギシギシ、カラムシ等 の多年生雑草	メヒシバ、エノコログサ等の1年生雑 草、チガヤ、ヨモギ、ギシギシ、カラム シ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ヒルガオ、ノビル等	スギナ、ヒルガオ、クローバー、ツユク サ、ノビル等
効果の発現	1年生：2～7日 多年生：2～7日	1年生：7～10日 多年生：10日前後
抑 草 期 間	1年生：60日～ 多年生：種子より再発芽するまで	1年生：60日～ 多年生：種子より再発芽するまで
薬 害	散布液が直接枝葉にかかるると薬害（落葉 後発芽する場合の葉は柳葉状となる）を 生じるが、根部からの吸収害はない。	散布液が直接枝葉にかかるると薬害（落葉 後発芽する場合の葉は柳葉状となる）を 生じるが、根部からの吸収害はない。
散 布 時 注 意 事 項	①グリホサートを含む農薬の総使用回数 は5回以内。 ②少量散布の場合は専用ノズルを用いて 雑草の表面に均一に散布する。 ③散布後効果の完成までにやや日数がか かるため、誤って再散布しない。 ④散布後1時間以内の降雨では効果を低 下させることがあるので天候を良く見極 めて散布する。	①グリホサートを含む農薬の総使用回数 は5回以内。 ②泥などで濁った水は効果を低下させる ので、本剤の調製には使用しない。 ③展着剤を加用する必要はない。 ④本剤は土壌中で速やかに不活性化する ので、雑草の発生前の散布は効果がな い。 ⑤通常2～14日で効果が発現し、効果の 完成までにさらに日数を要するので誤っ て再散布しない。 ⑥散布後6時間以内の降雨は効果を低下 させることがあるので、天候を良く見極 めて散布する。 ⑦土壌が流亡したり、くずれたりする恐 れのある所では使用しない。
有 効 成 分	グリホサートカリウム塩48.0%	グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%

[【目次に戻る】](#)

薬 劑 名	⑤タッチダウン i Q	⑥プリグロックス L
効果の高い雑草	1年生雑草および多年生雑草	メヒシバ、エノコログサ、ハコベ、ヤエムグラ、カラスノエンドウ、アメリカフウロ等の1年生雑草、スギナ、ヨメナ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ヒルガオ、ノビル等	ハマスゲ、ヨモギ、ギシギシ、ヤブカラシ、コヒルガオ等の多年生雑草
効果の発現	1年生雑草：2～4日 多年生雑草：7～14日	1～2日
抑 草 期 間	50日～60日	30～60日（但しスギナの抑制時期の場合は60日以上）
薬 害	葉や新梢、ひこばえ等の緑色部分に飛散すると薬害が生じる。	枝葉にかかると付着部分に薬害を生じる。
散 布 時 項 注 意 事	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は5回以内。 ②本剤は展着剤加用の必要はない。 ③散布後、効果の発現までに1年生雑草では2～4日、多年生雑草では1～2週間を要するので、この間は刈り取らないこと。 ④多年生雑草を地上部及び地下部まで含めて枯殺するには、雑草の生育盛期から生育終期または開花期前までに散布すること。 ⑤激しい降雨が予想される場合は、使用をさける。 ⑥土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。	①草丈が高い場合は効果が落ち易く、100倍液の雑草生育初期の散布が望ましい。 ②長時間雑草の発生を抑えたい場合は土壌処理型剤との混用が必要。 ③薬害防止のため低圧散布とし、飛散を抑える方法をとる。展着剤で加用する場合は、非イオン系展着剤を使用する。  スギナの密度抑制を目的とした場合 ①2,000mL/100L（50倍液）で安定した効果がある。 ②つくしままたはスギナの発生を確認してから約2ヶ月後（4月下旬～5月下旬）草丈20～30cm時に散布する。
有 効 成 分	グリホサートカリウム塩44.7%	ジクワット7.0% パラコート5.0%

[【目次に戻る】](#)



薬 剤 名	⑦サンダーボルト007	⑧シンバー
効果の高い雑草	スベリヒユ、ヤエムグラ、エノコログサ、マルバツユクサ等の1年生雑草 タンポポ、アサガオ類、ギンギシ、カラムシ等の多年生雑草	ハコベ、オランダミミナグサ、カラスノエンドウ、アメリカフウロ、オオイヌノフグリ、ヤエムグラ、ノボロギク、スズメノカタビラ、メヒシバ、イヌビエ、マルバツユクサ等の1年生雑草
効果がでにくい雑草	スギナ、ツユクサ	イヌビユ、ツユクサ
効果の発現	1～3日	3～6日
抑草期間	35～60日	30～70日
薬害	果樹の枝葉に直接薬液がかかると薬害が発生する。下垂枝、ひこばえにもかからないよう注意する。	砂質で透水性の大きな土壌の園では、薬害のおそれがあるので使用は避けること。
散布注意事項	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は5回以内。 ②展着剤は必要ない。 ③土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのあるところでは使用しない。 ④激しい降雨が予想される場合は、使用をさける。	①茎葉処理の場合は非イオン系展着剤を加用し、よく雑草に付着するように散布する ②かんきつに対して根部からの吸収害はほとんどないが、マツ・スギ・マキの防風垣の近くでは薬害が生じるため使用しない ③本剤は茎葉処理及び土壌処理効果を有するため、雑草のないところにも均一にムラなく散布する ④茎葉処理の場合は気温20℃以上の高温条件で使用する ⑤雑草生育期散布では草丈20cm以下の時に散布する ⑥雑草草丈が20cm以上の場合や、雑草密度の高い場合は他の茎葉処理剤との同時処理をする ⑦みかん園での繰り返しの散布は裸地化の害を生じることがあるので夏期1回散布する ⑧適用作物以外の圃場には使用しない。また付近の農作物、芝生、花卉類等にかからないように注意する
有効成分	グリホサートイソプロピルアミン塩30.0% ピラフルフェンエチル0.16%	ターバシル80.0%

[\[目次に戻る\]](#)

薬 剤 名	⑨ザクサ液剤
効果の高い雑草	メヒシバ、イヌムギ、ヤエムグラ、ツユクサ等の1年生雑草、ヨモギ、カタビラ、シロツメクサ、スギナ、ユウガオ、タンポポ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ススキ、チガヤ等
効果の発現	1～3日
抑草期間	40～50日
薬害	散布液が直接枝葉にかかると薬害（落葉後発芽する場合の葉は柳葉状となる。）を生じるが、根部からの吸収害はない。
散布時の注意事項	①グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②展着剤は必要ない。 ③薬剤散布後、1時間程度降雨がなければ効果に大きな影響はない。
有効成分	グルホシネートPナトリウム塩11.5%

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#)）。

[【目次に戻る】](#)

〔Ⅱ〕 落葉果樹園雑草防除 [〔目次に戻る〕](#)

薬 剤 名	①カソロン粒剤6.7 (対象果樹：なし、もも、リンゴ)	②ラウンドアップマックスロード
効果の高い雑草	ギシギシ、ヨモギ、タンポポ、ヤブガラシ等の多年生広葉雑草	メヒシバ、エノコログサ等の1年生雑草 チガヤ、ヨモギ、ギシギシ、カラムシ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ヒルガオ、スベリヒユ、クローバー、ワラビ、ネザサ、ノビル、チガヤ等	ヒルガオ、ノビル等
効果の発現		1年生：2～7日 多年生：2～7日
抑 草 期 間	春草の発生を抑制する。	1年生：60日～ 多年生：種子より再発芽するまで
薬 害	落葉果樹では根部からの吸収害はほとんどないが、マツ類、ヒノキ等では薬害を生ずることがある。	散布液が直接枝葉にかかると薬害を生じるが、根部からの吸収害はない。
散 布 時 事 項	①イネ科に対しては効果が劣るので、イネ科雑草が優先する場所での使用は避ける。 ②新植後3年未満の果樹園では、使用しない。 ③施設内およびその周辺では使用しない。 ④散布後土壌混和しない。 ⑤果樹類に対しては開花期前後の使用は結実不良などを発生するおそれがあるのでさける。	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②少量散布の場合は専用ノズルを用いて雑草の表面に均一に散布する。 ③散布後効果の完成までにやや日数がかかるため、誤って再散布しない。 ④散布後1時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので天候を良く見極めて散布する。
有 効 成 分	DBN6.7%	グリホサートカリウム塩48.0%

[〔目次に戻る〕](#)

薬 劑 名	③草枯らしMIC	④タッチダウンiQ
効果の高い雑草	メヒシバ、エノコログサ等の1年生雑草 チガヤ、ヨモギ、ギンギシ、カラムシ等の多年生雑草	1年生雑草および多年生雑草
効果がでにくい雑草	スギナ、ヒルガオ、クローバー、ツユクサ、ノビル等	ヒルガオ、ノビル等
効果の発現	一年生：7～10日 多年生：10日前後	1年生雑草：2～4日 多年生雑草：7～14日
抑草期間	一年生：60日 多年生：種子より再発芽するまで	50日～60日
薬 害	散布液が直接枝葉にかかるると薬害（落葉後発芽する場合の葉は柳葉状となる）を生じるが、根部からの吸収害はない。	葉や新梢、ひこばえ等の緑色部分に飛散すると薬害が生じる。
散布時の注意事項	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②泥などで濁った水は効果を低下させるので、本剤の調製には使用しない。 ③展着剤を加用する必要はない。 ④本剤は土壤中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前の散布は効果がない。 ⑤通常2～14日で効果が発現し、効果の完成までにさらに日数を要するので誤って再散布しない。 ⑥散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めて散布する。 ⑦土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②本剤は展着剤加用の必要はない。 ③散布後、効果の発現までに1年生雑草では2～4日、多年生雑草では1～2週間を要するので、この間は刈り取らないこと。 ④多年生雑草を地上部及び地下部まで含めて枯殺するには、雑草の生育盛期から生育終期または開花期前までに散布すること。 ⑤激しい降雨が予想される場合は、使用をさける。 ⑥土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。
有効成分	グリホサートイソプロピルアミン塩41.0%	グリホサートカリウム塩44.7%

[【目次に戻る】](#)

薬 劑 名	⑤バスタ液剤（対象果樹：なし、かき、ぶどう、もも、うめ、びわ、りんご、くり、キウイフルーツ）
効果の高い雑草	メヒシバ、オヒシバ、エノコログサ、カラスノエンドウ等の1年生雑草、スギナ、ギシギシ、ヨモギ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ヤブガラシ、イヌガラシ、ハマスゲ、クズ、ネザサ等
効果の発現	2～5日
抑草期間	40日～50日
薬 害	枝葉に直接かかると薬害を生じるが、根部からの吸収害はない。
散布時の注意事項	<p>①グルホシネートを含む農薬の総使用回数は3回以内。</p> <p>②冬期～春先の低温時期よりも、5月以降の高温期での効果が優れる。</p> <p>③安定した効果を出すためには草丈、草量の増加に伴い薬量を増すが、特に生育が進んだ多年草には750mLが必要。</p> <p>④高濃度散布の場合ほとんどの草種で地上部の枯殺は出来るが、宿根部からの再生が見られる。</p> <p>⑤対象作物によって本剤の使用時期が異なるため、登録内容の確認をしっかりと行う。</p> <p>⑥散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めて散布する。</p>
有効成分	グルホシネート18.5%

[\[目次に戻る\]](#)

薬 剤 名	⑥プリグロックスL	⑦サンダーボルト007 (対象果樹：カンキツ、パイナップル、キウイフルーツを除く)
効果の高い雑草	メヒシバ、エノコログサ、ハコベ、ヤエムグラ、カラスノエンドウ、アメリカフウロ等の1年生雑草、スギナ、ヨメナ等の多年生雑草	スベリヒユ、ヤエムグラ、エノコログサ、マルバツユクサ等の1年生雑草、タンポポ、コヒルガオ、ハマスゲ、ギシギシ、カラムシ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ハマスゲ、ヨモギ、ギシギシ、ヤブガラシ、コヒルガオ等の多年生雑草	スギナ、ツユクサ
効果の発現	1～2日	1～3日
抑 草 期 間	30～60日 (但しスギナの抑制時期の場合は60日以上)	35～60日
薬 害	枝葉にかかると付着部分に薬害を生じる。	果樹の枝葉に直接薬液がかかると薬害が発生する。下垂枝、ひこばえにもかからないよう注意する。
散 布 時 の 注 意 事 項	①草丈が高い場合は効果が落ち易く、100倍液の雑草生育初期の散布が望ましい。 ②長時間雑草の発生を抑えたい場合は土壌処理型剤との混用が必要。 ③薬害防止のため低圧散布とし、飛散を抑える方法をとる。展着剤で加用する場合は、非イオン系展着剤を使用する。  スギナの密度抑制を目的とした場合 ①2,000mL/100L (50倍液) で安定した効果がある。 ②つくしままたはスギナの発生を確認してから約2ヶ月後 (4月下旬～5月下旬) 草丈20～30cm時に散布する。	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②展着剤は必要ない。 ③土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのあるところでは使用しない。 ④激しい降雨が予想される場合は、使用をさける。
有 効 成 分	ジクワット7.0% パラコート5.0%	ピラフルフェンエチル0.16% グリホサートイソプロピルアミン塩30.0%

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム \(農林水産省\)」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

#### 4. 茶の雑草防除 [\[目次に戻る\]](#)

除草剤名	備 考
トレファノサイド粒剤 2.5 (トリフルラリン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粒剤では適度の土壌水分下での効果が高く、重粘土壌は多めに散布する。</li> <li>・乳剤では幼茶園での処理後土壌混和をしない。年2回以内の散布とする。</li> </ul>
トレファノサイド乳剤 (トリフルラリン)	
プリグロックスL (ジクワット・パラコート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑草の生育初期に十分薬剤がかかるように散布する。</li> <li>・草丈が高く繁茂している園では、雑草の地際まで十分に散布する。</li> <li>・散布区内の雑草発生程度や生育程度によって適宜加減する。</li> </ul>
バスタ液剤 (グルホシネート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散布区内の雑草発生程度や生育程度などによって適宜加減する。</li> </ul>
ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少量散布の場合は専用ノズルを用いて雑草の表面に均一に散布する。</li> </ul>

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#))。

[\[目次に戻る\]](#)

## 参 考 資 料

各種除草剤の特性 [\[目次に戻る\]](#)

処 理 区	バスタ液剤	ブリグロックスL	ラウンドアップ ハイロード	刈り取り区
処理前の草種 及び草丈(cm)	アレチノギク 45~70 アキノゲシ 40~55 メヒシバ 30~40 イヌタデ 45 ツユクサ 30 ナガハグサ 25~30	アレチノギク 50~70 アキノゲシ 40 メヒシバ 30~40 イヌタデ 35 ツユクサ 20 ギシギシ 8	アレチノギク 50~80 アキノゲシ 40 メヒシバ 40~50 イヌタデ 20 ツユクサ 8 スイバ 30	アレチノギク 45 アキノゲシ 35~40 メヒシバ 45~55 イヌタデ 35 ツユクサ 8 チガヤ 10
処理年月日	92年7月30日	92年7月30日	92年7月30日	92年7月29日
効果発現日(黄化)	7月31日	7月31日	8月1日	-
完全枯草日	8月10日	8月1日	8月14日	-
再生開始日	9月3日	8月31日	9月3日	8月10日
抑草期間	(34日)	(31日)	(34日)	(11日)
処理後43日目 (9/11) 草種及び草丈 再生量 (g/2m <sup>2</sup> )	メヒシバ 15~ (15%以下) 80	メヒシバ 15~ (10%以下) 130	メヒシバ 10~ (10%以下) 70	メヒシバ 35~65 アレチノギク 30 アキノゲシ 28~50 (85~90%以下) 2030
茶樹に対する影響 (茶茎葉に薬剤が 付着した場合)	葉縁に茶褐色油浸状 斑	茶葉は褐変落葉	葉縁に茶褐色油浸状 斑	-
その後の再生	有	有	有	-



# 植物生長調整剤使用方法

## 1. かんきつ植物生長調整剤 [\[目次に戻る\]](#)

○ 温州みかんの摘果、熟期促進（着色及び糖度の上昇促進）、浮皮軽減、夏秋梢伸長抑制

(1) 薬剤名

フィガロン乳剤（主成分……エチクロゼート）

（製品は主成分を 20%含有）

(2) 使用方法

適用作物	使用目的	備考	
温州みかん	全摘果		
	間引摘果		
	熟期促進	A. 間引摘果をかねて使用する場合	
		B. 熟期促進だけに使用する場合	
	浮皮軽減		
	夏秋梢伸長抑制		

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

(3) 使用上の注意点

ア 共通して注意すべき事項

- (ア) フィガロンは植物ホルモン剤であり、みかん以外の植物に対しても影響をおよぼすので、使用後の散布器具等は十分洗浄するとともに、残液の処分にも注意する。
- (イ) 全摘果以外の目的に使用する場合は、7～8年生以上の樹勢の安定した成木を対象とする。
- (ウ) フィガロンは原則として単剤で使用する。石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用は避け、本剤散布の約 10 日前から 1～2 日後の近接散布をさける。
- (エ) エチクロゼートを含む農薬の使用回数は 4 回以内（但し 1,000 倍希釈散布は 2 回以内）となっている。

## イ 使用目的ごとの注意すべき事項

### (ア) 全摘果の場合

- a 幼木で全摘果したい場合は樹全体に散布、成木で局部的に全摘果したい場合には摘果したい部分のみ散布するが、30℃近くの高温が予想される日を選んで散布する。
- b 早熟系品種は局部的全摘果とすることで効果が安定し、品質も向上する。
- c 本剤の 1,000～2,000 倍液とエスレル 10 の 2,000～8,000 倍液とを混合使用するとより効果的である。但しエスレル 10 の濃度が高い場合や樹勢が弱い場合には落葉を助長するので注意する。

### (イ) 間引き摘果の場合

- a 摘果剤による効果は気温の影響を受けやすく、最高気温が 25～30℃では安定するが、これより低温では効果が劣る。
- b フィガロンで落果しやすい果実は果径 20mm 以下の小果で、25mm 以上となった果実は落果しにくいいため、果実の肥大状況を見ながら必要な摘果程度となるよう散布時期を決定する。
- c 散布後、必ず手直しによる仕上げ摘果を行い、果実の均質化と結果量の調整を行う。
- d 散布後 5～7 時間以内の降雨により効果が低下することがあるが、再散布は落果過多を招く恐れがある。
- e 樹勢が強い樹（幼木、若木等）では効果が安定せず、一方、樹勢が弱い樹では落葉を助長し、落果過多となることがあるので使用しない。

### (ウ) 熟期促進の場合

- a 熟期促進のみに使用する場合の第 1 回目散布は、摘果効果を示す場合があるので、希釈倍数や散布時期に注意する。
- b 着果量が適正結果量を大きく下回るような場合には効果が劣るので散布しない。
- c 夏芽の発生を抑制する傾向があり、夏芽を発生させたい場合には散布しない。

## ウ 使用上の留意点

フィガロンの効果は散布日数及びその後の天候、樹勢、落葉比等で異なることがあるので、散布時期、濃度等を厳守しても、不測の事態を生じることがある。従って、散布前後の気象条件や樹の状態を出来るだけ詳しく記録しておき、原因究明の資料となるよう確保しておく。

○ 温州ミカン摘果剤、夏秋梢伸長抑制

(1) 薬剤名

ターム水溶剤（主成分・・・1-ナフタレン酢酸ナトリウム）  
（製品は主成分を22%含有）

(2) 使用方法

適用作物	使用目的	備考
温州みかん	全摘果	全摘果、間引き摘果どちらか1回
	間引き摘果	
	夏秋梢伸長抑制	
	結果母枝の充実、着花促進	

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

(3) 使用上の注意点

ア 共通して注意すべき事項

(ア) 本剤は植物ホルモン剤であり、微量で効果を示すので周辺作物にかからないようにする。

また使用後の散布器具等の洗浄は充分行うとともに残液の処分にも注意する。

(イ) 散布直後の降雨は効果が減ずる原因となるため、7時間以上降雨がみられない条件で散布する。

(ウ) 散布条件によっては薬効や薬害発生に影響が現れやすいため他剤との混用は避ける。またアルカリ性薬剤との近接散布で旧葉の落葉が助長される場合がある。

(エ) 1-ナフタレン酢酸ナトリウムを含む農薬の使用回数は4回以内（生理落果発生期は1回以内、生理落果発生後は3回以内）となっている。

イ 摘果剤

(ア) 一樹全摘果目的に使用する場合は樹全体に、局部全摘果目的に使用する場合は全摘果したい部位に散布する。

(イ) 間引き摘果目的に使用する場合は、薬液が葉先から滴らない程度にむらなく散布する。その際、樹冠上部にたっぷり、樹冠下部にはうすく散布する。

(ウ) 散布後は必ず仕上げ摘果を行い、目的とする着果量に調整する。

ウ 夏秋梢伸長抑制

(ア) 散布時期が遅くなると効果が低くなるため、樹体の観察を入念に行い発芽前に散布を行う。

(イ) ハウスミカンにおいて加温日に近接した散布は加温後の発芽率を低下させる恐れがあるため、最終散布は加温予定日から 40 日程度間隔をあける。

エ 結果母枝の充実、着花促進

(ア) 結果母枝の充実、着花促進の目的で使用する場合は、施設栽培以外では使用しない。

○ 中晩柑のへた落ち防止剤・後期落果防止剤

(1) 薬剤名

マデック E W (M C P B 20.0%)

(2) 使用方法

作物名	使用目的	備考
かんきつ	へた落ち防止	
	後期落果防止	
	冬期落葉防止	

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

(3) 使用上の注意

ア かんきつに使用するに当たり、下記に記載した使用目的と作物の組み合わせ以外にはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用する。

へた落ち防止：伊予柑、甘夏、ネーブル、八朔、不知火、はれひめ、天草、はるみ、せとか、ポンカン、はるか、ブラッドオレンジ

後期落果防止：清見、八朔、アンコール、マーコット、日向夏、河内晩柑

イ 着色前および着色初期には使用しない（着色遅延）。

ウ 本剤は植物ホルモン剤であり、散布条件によって薬効・薬害に影響が現れやすいので他の薬剤との混用はさける。また散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候を見きわめてから散布する。

エ 使用の際は果梗部を中心に樹全体にむらなく、ていねいに散布する。

オ 一般作物にもごく微量でホルモン作用をあらわすので周辺作物にかからないように注意すること。また、使用後の散布器具等は十分洗浄すること。

カ へた落ち防止を目的として使用する場合、果実を長期間貯蔵したい場合にのみ使用する。

キ 極端に樹勢の強い樹及び樹勢の弱い樹または幼木では本剤の使用をさける。

ク 冬期落葉防止及びへた落ち防止に使用する場合は合計 1 回以内、後期落果防止に使用する場合は 2 回以内(但し、異なる目的には使用しない)。

○かんきつの花芽抑制・生理落果防止剤、温州みかんの浮皮軽減、不知火等の水腐れ軽減

(1) 薬剤名

ジベレリン粉末（ジベレリン 3.1%）・液剤（ジベレリン 0.5%）

ジャスモート液剤（プロトジヤスモン 5%）

(2) 使用方法

作物名	使用目的	備考
温州みかん	花芽抑制による樹勢の維持	
	落果防止	
	浮皮軽減	
不知火 はるみ ぼんかん 清見	花芽抑制による樹勢の維持	
	落果防止	
	水腐れ軽減	
かんきつ (温州みかん、不知火、はるみ、ぼんかん、清見を除く)	花芽抑制による樹勢の維持	
	落果防止	

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。[【目次に戻る】](#)

(3) 使用上の注意

ア 共通して注意すべき事項

- (ア) ジベレリンを含む農薬の生育期間中（前年の収穫後から当年の収穫まで）総使用回数は1回(温州みかん、不知火、はるみは3回以内)である。
- (イ) マシン油散布後は薬液が付着しにくいので、マシン油と混用しない場合は散布前に使う。また、アルカリ性農薬との混用および近接散布は避ける。
- (ウ) 調整した薬液はできるだけ当日中に使用する。

イ 花芽抑制による樹勢の維持

- (ア) 低温が続いた年（極端な低温の年）には、遅い時期の低濃度処理を心がける。
- (イ) 衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しない。
- (ウ) 散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布すること。
- (エ) マシン油と混用する場合はジベレリンに加用の登録のある剤（クミアイアタックオイル）を使用し、マシン油の注意書きを確認した上で使用すること。

ウ 落果防止

- (ア) 生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により感受性が異なるので、初めての品種等に利用する場合は最寄の指導機関の指導を仰ぐか、事前に薬効等を確認して使用する。

エ 浮皮軽減

- (ア) 本剤処理により、着色が遅延することがあるため、ジベレリンの注意書きを確認した上で、収穫時期、貯蔵期間によって使用濃度を調整すること。

## 2. 落葉果樹植物生長調整剤使用方法 [【目次に戻る】](#)

### ○ ナシの熟期促進、果実肥大促進および新梢伸長促進

#### (1) 薬剤名

ジベレリンペースト（ジベレリン 2.7%）

#### (2) 使用方法

適用作物	使用目的	使用回数	ジベレリンを含む農薬の総使用回数	備考
日本なし	熟期促進	1回	2回以内(果梗部塗布1回以内、新梢基部塗布は1回以内)	
	果実肥大促進			
	新梢伸長促進			

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#)）。

### [【目次に戻る】](#)

#### (3) 使用上の注意

ア 果面に薬が付着すると果面の汚れ、薬害をおこすので注意して塗布する。

イ ペースト剤処理によって熟期が3～7日早くなるので収穫適期に注意する。

ウ 植物ホルモン剤であるから微量でも植物に影響を与えるので適用作物、使用時期・量・方法を厳守すること。

エ 人畜に対しては殆んど毒性はないが保管は冷暗所に子供の手のとどかぬ所に置く。

オ 肥培管理が不十分な園や天候不順の時は充分効果が得られない場合がある。また幸水では樹勢が低下した樹では裂果を助長することがあるので、このような園では使用しない。

カ 生理的障害の発生樹では使用しない。

キ ジベレリンを含む農薬の総使用回数は2回以内（果梗部塗布および新梢基部塗布はそれぞれ1回）。苗木の新梢伸長促進については3回以内。

### ○ ブドウの無種子化・果粒肥大促進剤

#### (1) 薬剤名

・ジベレリン粉末（ジベレリン 3.1%）・ジベレリン錠剤（4.55%）・フルメット液剤（ホルクロルフェニユロン 0.10%）

#### (2) 使用方法

適用作物	使用目的	備考
ブドウ巨峰系4倍体品種	無種子化果粒肥大促進	
	有核果粒肥大促進	
ブドウ2倍体欧州系品種	無種子化果粒肥大促進	

注) 各薬剤の農薬登録情報は、「[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#)」を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)  
[方法参照](#)）。

## [【目次に戻る】](#)

※ 生育調整剤の使用にあたっては、剤型やメーカーの違いによって、農薬の登録状況が異なる場合がありますので、登録内容を確認し、適正に使用すること。

### (3) 使用上の注意

ア なるべく晴天の日を選んで処理する。

イ 使用方法、時期、濃度などを間違えないよう十分注意する。

ウ 無種子化処理は樹勢の強い樹に使用する。果房が大きくなるので処理前に花房先端を利用して小房に整房する。また、処理により果梗は硬くなるためジベレリンの使用濃度は薄めにする。なお、脱粒しやすくなるので収穫時に果粒が密着するように摘粒し、収穫後の調整・箱詰めはていねいに取り扱う。

エ フルメット液剤を用いて果粒肥大をねらう場合、果粒が大きくなりすぎて着色の遅れや糖度の低下など品質へ悪影響を及ぼす恐れがあるため、使用濃度は薄めにし、整房、摘房、摘粒などの管理を適切に行い適正結果量を厳守する。

オ ブドウ巨峰系4倍体品種、2倍体欧州系品種のジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内（但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内）。

カ ブドウ巨峰系4倍体品種、2倍体欧州系品種の無核栽培におけるホルクロルフェニユロンの総使用回数は3回以内（但し降雨等により再処理を行う場合は計5回以内）。

キ ブドウ巨峰系4倍体品種の有核栽培におけるホルクロルフェニユロンの総使用回数は1回（但し降雨等により再処理を行う場合は計2回以内）。

### <ジベレリン及びホルクロルフェニユロン混用1回処理による無種子化・顆粒肥大促進>

① 巨峰系4倍体品種は、満開3～5日後の落花期におけるジベレリンとホルクロルフェニユロンの省力的な混用1回処理により、無種子化及び顆粒肥大促進が図れる。しかしながら、「巨峰」の特性を受け継いで度合いに品種間で差異がみられるので、これらの薬剤をはじめの品種に使用する場合は、最寄りの指導機関の指導を仰ぐか、自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用すること。

② 処遇時期が遅れると有核果混入のおそれがあるので、処理時期は厳守すること。

③ 樹勢を強めに維持することや処理前の整房については、ジベレリン2回処理体系に準ずる。